

国文学研究資料館特別コレクション山鹿文庫蔵

『武教本論鶉飼註 上中』— 解題と翻刻

中嶋英介・島田雄一郎

要旨

本稿は国文学研究資料館特別コレクション山鹿文庫蔵『武教本論鶉飼註 上中』を翻刻し、解題を附したものである。『武教本論』の原著者山鹿素行は、数々の兵学書を著した思想家として知られるが、素行以降の資料については弟子が編纂した『武教小学』の注釈書紹介にとどまり、山鹿流兵学が後世の大名にも評価された背景を知るには至らない。

『武教本論』は、内容の簡略さ故か素行の著書の中ではさして知られていないが、晩年の素行が弟子との兵学談義に『武教本論』を用いた記録が残されるだけでなく、『武教本論』が『武教要録』の巻末に組み込まれた点からみても、決して看過できるものではない。また、本資料には素行の思想が兵学とともに、日用道徳を重視した「素行学」も継承されていた事実をうかがい知ることができる。兵法論に終始せず、文武兼備の「武教」を説いた『武教本論』がいかに解釈されたのか、『武教本論鶉飼註 上中』の翻刻は『武教本論』自体の見直しのみならず、素行が生涯唱え続けた「武教」の展開を検討する契機ともなるだろう。

一、解題

近世前期の思想家山鹿素行（一六二二〜八五）は『武教全書』・『武教三等録』・『武教余談』等、数多くの兵学関連書を著した兵学者として知られる。その学問は主に山鹿流兵学として広まり、平戸・津軽藩では素行の子孫が仕える等、素行の死後も積極的に評価され続けた。ここに紹介する国文学研究資料館特別コレクション山鹿文庫蔵『武教本論鶴飼註 上中』（番号・B二九ク七・六三七）は、素行原著の『武教本論』（明暦二（一六五六）年序）の注釈書である。法量は縦二五・〇センチメートル、横一八・二センチメートル、一冊本で紙数二三紙（うち遊紙一紙を含む）、奥書・印記はみられない。山鹿文庫のリスト『山鹿家積徳堂文庫目録稿』によれば写本年代は江戸後期とあるが、詳細は不明である。資料の一丁表には紙片が挟まれ「罌城下后学鶴飼権治佐久間晟珍考」の文言がある。

『武教本論』は実地の兵法を説いたわけではなく、天下を治める手段として文武兼備の「武教」を提示した書と位置づけられる。その内容は上篇の太原（人原・道原・事原）、中篇の主要（君職・三事・警戒・建官・選教・武備・法制・内閲・賞罰）、下篇の戦略（武教・謀知・戦法・戦地・戦時・戦要・戦要）の全三篇一九項目を数えるが、本資料は上巻と中巻君職・三事・警戒の一部、建官の注釈にとどまり、抄本の体裁をとる。

素行による教訓書といえは弟子編纂の『武教小学』が知られており、その注釈書は『武家小学』（井上哲次郎・有馬祐政編『武士道叢書』中〔博文館、一九〇九〕所収）・『武教小学講義』（廣瀬豊命名。同篇『山鹿素行兵学全集』（教材社、一九四四）四・五巻所収）、近年では秋山一實氏によって弘前市立弘前図書館蔵『武教小学師弁書』（『日本学研究所』一五、二〇一二）・『武教小学弁解』（同前一七、二〇一四）等が紹介されてきた。一方『武教本論』の

注釈書は翻刻の機会に恵まれてこなかったが、『家譜年譜』（『山鹿素行全集 思想篇』〔岩波書店、一九四二〕一五卷所収）によれば、晩年の素行は弟子との兵談に『武教本論』を用いた記載が確認できるだけでなく、注釈書も複数現存する以上、山鹿流兵学の中でも決して忘れ去られた書ではない。

事実、素行は『武教本論』の跋文にて「今門人輯録する所の小学（『武教小学』―筆者註、以下同）と、予の述作する所の本論（『武教本論』）とを一冊と為し、要録（『武教要録』）第五に繋げ、別集と号す。茲に武教の始終悉く」（『全集』一卷―五四二）とし、門人編纂の『武教小学』と『武教本論』を『武教要録』の一部に組み込んで「武教」の充実を図ろうとした動きがうかがえる。本資料の翻刻は『武教本論』の見直しのみならず、素行の生涯にわたってこだわった「武教」が後代いかに解釈・展開したのかを検討する契機となるだろう。

二、凡例

- 一、字体は漢字・仮名とも通行のものに改め、漢文は原則として書き下した。
- 一、通読の便を考慮し、私に句読点・濁点を加えた。
- 一、翻刻者による注記は（〜）で記した。
- 一、改面位置は「（一才）」のように示した。
- 一、補入されている文字は（ ）で記した。
- 一、虫損による判読不能の文字は■を用いた。
- 一、本資料の解題と自叙・上巻の翻刻は中嶋が、中巻の翻刻は島田が担当した。

三、翻刻

武教本論自叙

武教本論ハ山鹿素行先生ノ述作ナリ。委シクハ上篇ノ始ニ記ス、△自叙トハ、自ハ先師自ラ序ヲ作ル故ニシカ云ヘリ。叙ハ序ト同ジ、事ハ全書ニ自序ノ釈委シ。故ニ今之レヲ略ス。

本論は何の爲にして作らんや、後学の其の末流を嗜まんが爲なり。

此ノ叙ハ山鹿先師問答ノ心ヲ含ミテ書玉ヘリ。史記太史公ガ自序伝ニ上大夫一遂ガ曰、昔孔子何ノ爲ニシテ春秋ヲ作ランヤ。此ノ語リ前漢書ノ司馬遷伝ニモ此ノ言出ヅ。又○朱子中庸序ニ曰ク、中庸ハ何ノ爲ニシテ作ランヤ。子思子道学ノ其ノ伝ヲ失ハンコトヲ憂ヒテ作レリトナリ、云云。先（○生）謂ク、此ノ本論ハ何ノ爲ニシテ述作スルヤト。其ノ本意ヲ述ベン為ニ問ノ言ナリ。△後学ノ其ノ末流ヲ嗜マンガ為ナリトハ、答ノ言ナリ。後ノ兵法ヲ学バン者ハ、其ノ本源ヲ正サズシテ末流支葉ヲ嗜マンコトヲ憂テ、是レヲ作レルトナリ。嗜ム者ハ欲ナリ、好ナリ。孟子ノ朱注ニ耳ナリトアマンズルナリ、スクエノムナリ。先生専ラ之レヲ憂ヒテ、雄備ノ奥儀ニハ兵源ヲ論ジ、全書ノ自序ニハ然トモ其ノ本源ヲ知ラズシテ其ノ枝葉ヲ論ズル故ニ、兵要沉淪、本末差別シテ一貫セザルノ甚ダシク歎息スベシト宣ヘリ。兵法ヲ学ブ者ハ其ノ本ヲ学ビ、勤メテ大道ニ原カザレハ、権謀詐偽ニ陥リ、却ツテ不義タリ。不仁ヲ行フノ一助トナル故ニ先生甚ダ戒メ玉ヘル処ナリ。治世ニ至テハ其ノ末流久シクシテ愈ヨ其ノ」（一才）伝ノ本志ヲ失ハンコトヲ憂ヒテ、此ノ本論ヲ作レルナリ。此ノ一句、此ノ序中ノ序ニシテ千万ノ警戒ヲ含ルノ外ハ、

此ノ意ヲ述ベタルモノナリ。

古今武を談ずる百余家、其の書其の辞、或は博文に涉り或は省略に過ぐ。

△古今武ヲ談ズル百余家トハ、古ヨリ今ニ到リテ兵法武備ヲ談ジ、其家ヲ立ツル者、百家有リトナリ。然レドモ百ハ必ズシモ数ニ泥マズ、兵ヲ談ズル者ノ数多アリト云フノ義ナリ。唐太宗ノ曰ク、漢ノ張良・韓信、兵法ヲ序次スルコト凡ソ百八十二家、要用ヲ刪取シ三十五家ヲ定メ著ス、云云。本朝ニ於テ兵家流少ナカラズ。其ノ源、イワイヌシケンケ齋主武

イカツチ

雷ノ二神ニ起コリ、四道將軍ノ伝秘、四姓ノ家伝ニ分カレ、正暦年中大江氏、鳩ノ峯ニ於テ源家ニ兵法ヲ伝フル

ノ後、思ニ伝ハリ、義経ニ行ハレ、正成ニ備リ、世々其ノ人ヲ得テ伝ハリ、或ハ已ムヲ得ズ其ノ書ノミ附屬シ、中興大ニ分カレテ数家トナリ、近世守成ノ文挙ニ沐シテ、楠氏・武田氏、或ハ義経・持資・輝虎等ノ名ヲ借り書ヲ偽シ、者流トナル者、甚ダ多シ。虚ニ于ヒテ実ニ于ヒテ百家余ニ及ブト云ヘドモ、其ノ直伝ヲ以テスル者、尤モ少ナシ。凡テ百余家ト云ヘリ。△其ノ書其ノ辞トハ、書ニ著シロツカラ伝フルナリ。△或ハ伝文ニ涉リ、或ハ省略ニ過グトハ、博雜繁文ニシテ事理混雜シ約セズ。或ハ其ノ書ノ省略ニ過ギテ、事ニ闕ケ用ニ足ラズ。博文ノ過、省略ノ及バズ。共ニ中ヲ得ズシテ一貫セザルナリ。

専ら鬪戰詐術を論じて、神武を去ること甚だ遠き故に兵家者流に陥り、権謀技芸となる。噫、上刑の説、尤も由有らんや。」「(一ウ)

△専ら鬪戰詐術ヲ論ジテ、神武ヲ去ルコト甚ダ遠キトハ、専ハ純一ナリ。鬪爭戰陣ノ事ヲ述ベ、詭道詐術ヲ以テ兵法ノ本意ノ如ク論説スルガ故ニ、神武ヲ去ルコト甚ダ遠シ。神武ハ易ノ神武ヲ云ナリ。△故ニ兵家流ニ陥リトハ、

兵法ノ大道ヲ知ラザル者ハ兵法ヲ以テ一術トナリ一家ノ芸者トナル、故ニ兵家者流ト云ナリ。兵家者流ノ文字ハ、専ラ李衛公問答ニ出タリ。△権謀技芸トナルトハ、権謀ハ権謀術数ノ詭道ヲ用ルヲ云フナリ。技芸ハ一枝ノ小芸ナリ。技ハ芸ナリ、方術ナリ。ワザト訓ジテ、ダテト訓ズルナリ。兵法ヲ以テ一家者流ニ陥リ大道ヲ知ラズ。或ハ小枝一芸ト為シテ足レリトスルナリ。故ニ先生兵法ノ大道武道ノ本源、世上ニ沉淪セルヲ憂テ、噫ト歎息セルナリ。噫ハ字書ニ痛傷ノ色ナリト云ヘリ。先生兵法ヲ学ブ者、唯ダ其ノ大道ヲ本覚センコトヲ欲シ玉テ口ヲ開クハ、出入将相文武ノ賢才タランコトヲ説ケリ。然ニ兵家者流ニ陥リ技芸トナリ権謀ヲ事トスル、太ダ歎息シ玉ヘリ。況ヤ兵法ヲ説テ一旦ノ譏誉ニ拘リ、他家ト善悪ヲ争フガ如キハ、取材スル所無シ。孟子ノ所謂天下ノ広居ニ居リ、天下ノ正位ニ立チテ天下ノ大道ヲ行フ。志ヲ得レバ民ト之レニ由リ、志ヲ得ザレバ独リ其ノ道ヲ行フ、是レ言フ者ナリ。後学ノ志ナリ。△上刑ノ説、尤モ由有ランヤトハ、上刑ハ書経ノ呂刑ノ文字ナリ。上刑下刑有リ。孟子曰ク、故ニ善ク戦フ者ハ上刑ニ服ス。上刑トハ五経大全ニ死刑ナリト云ヘリ。兵家誤リテハ謀詐戦闘ニ陥リ、人ヲ殺スコトヲ嗜ム。故ニ其ノ刑ヲ加フルトキハ上刑ノ罰ニ当ル。」（二オ）誠ニ上刑ノ書、孟ニ説クル処、尤モ由ヘ有ル義ナリトナリ。詩ニ曰ク、愆ラズ忘レズ、旧章ニ率リ由ル、云云。

本朝は国家の治平近く武門に出づ。其の武たるや文教を並び兼ね、故に武より一家の説有り。噫、武の教たる忽せにすべけんや。

本朝ハ 吾神武ノ国ヲ指シ云フナリ。△国家ノ治平、近く武門ニ出ヅトハ 国家ノ治ハ治国、平ハ平天下ナリ。近ク武門ニ出ヅトハ 人皇八十二代後鳥羽天皇、文治元乙巳右大将頼朝卿、武臣ヲ以テ、日本惣追捕使ノ任ヲ兼シヨリ、治平皆ナ武門ニ出ルナリ。△其ノ武タルヤトハ、治平武門ニ出ル処ノ武ヲ指シ云ナリ。△文教ヲ並び兼ネトハ、

武ノ一偏ニ非ズシテ、文教ヲ並べ兼備セルトナリ。△故ニ武ヨリ一家ノ説有リトハ、故ハ国家ノ治平近ク武門ニ出
ヅル処ニ治国平天下ノ大業ノ神武ニシテ文教ヲ兼備シ、乃チ武、乃チ文ノ武文タリ。夫レ故ニ武自ズカラ一家ノ説
有リト。上ヲ受テ、夫レ故此ノ如キト云フノ故ノ字ナリ。武自一家ノ説トハ、自然ト武門繁榮ニシテ武ヲ以テ最一
タリ。武家ト称シテ文教ノ内ニ専ラ備フルコトヲ称セズシテ、武ノ一家ノ如クニ称シ説クナリ。武備有ル者ハ必ズ
文備有リト夫子ノ宣ル如ク、神武ナルガ故ニ必ズ聖文全ク備フルコト著シ、天下ノ治平豈ニ文ノ一旦武ノ一偏ヲ以
テ克センヤ。文ハ武ヲ兼ネ、武ハ文ヲ備ヘズシテ、叶ハザル義ハ必然ナリ。△噫、武ノ教タル忽セニスベケンヤト
ハ、ア、ハ欺息ナリ。武ノ教戒上ニ云ヘル如ク故ニ忽スベキコトニ非ズト、甚ダ戒ムルノ言葉ナリ。

夫レ武は勇の因る所、人未だ嘗て勇無くんばあらず。教に従ひて学ばざれば則ち猛に乱に其の害是れ多し。」(二一ウ)
△此ノ章、武ノ所以ヲ論ゼリ。夫レ武ハ何ゾ。勇ノ由ル所ナリ。文ハ徳ヲ以テシ、武ハ勇ヲ以テス、是レ武ノ全体
ナリ。人ニ於ケル勇氣ハ肺金ノ司リナリ。武ハ元ト天ノ義氣殺伐、時ニ於テ秋トナリ、肺金モ亦タ秋ニ旺ンニシテ、
是レ武者勇ノ相固ヨル所以ナリ。人トシテ勇無キ時ハ戴割断別何ヲ以テセンヤ、況ヤ武人ヲヤ。未ダ勇無クンバ○
(有)ラズ。△教ニ從ヒテ学バザレバ則チ猛ニ乱ニ其ノ害是レ多シトハ、兵法武学ヲ致ス者、有道ニ附テ正シ。師
ヲ撰ビテ神武ノ大道ニ原カザルトキハ、猛ニ乱ニ其ノ害是レ多キナリ。有道ニ附キテ正シカラザルノ害ヲ云フ。猛
ニトハ猛ハタケシナリ。猛獸ノ一偏ニ猛キカ如ク、暴虎馮河ニシテ夫子ノ惡ミ玉フ処ナリ。有道ニ就キテ其ノ本原
ヲ尋ネ、大道ニ遇ハザルトキハ、多分此ノ如キナリ。乱ニトハ、勇ハ武夫ノ本トスル処ニシテ、其ノ教戒道ヲ正サ
ザルトキハ、必ズ乱ル。論語ニ曰ク、勇ニシテ礼無キトキハ乱ズ。又タ曰ク、勇有リテ義無キトキハ乱タリト。蒙
引ニ曰ク、乱ハ所謂上ヲ犯乱ヲ作スナリ。残害不仁、勇有リテ教ヘヲ受ケザルトキハ、其ノ害多キナリ、△其ノ害

是レ多シトハ、猛キニ乱ルルニモ指シ云フ。其ノ害是レ多キナリ。

教に学に、本を論ぜざれば則ち勞して功無し。

前ニハ教ヘニ從ヒテ学バザルトキハ、猛乱ノ其ノ害広ク多キヲ云フナリ。然ドモ、亦タ其ノ教ヘ其ノ学ビ、本原ヲ論説セザルハ又タ無益ナリ。△本トハ何ゾヤ、天ヲ知り地ヲ知り人ヲ知ルハ、道德仁義ノ外ニ出ルコト無し。止ムル処、日用当行ナリ。治乱文武分カチテ兩端トナルトキハ本ヲ論ズルノ教ヘニ非ズ。其ノ実ハ人ノ人タル所以ヲ知リテ、文武一途・日用当行ニシテ隔タリ無キヲ以テ本原ト為スベキカ。或ハ高遠迂闊ニ走セ、（三才）文武治乱兩途トスルトキハ無益ナリ。△勞シテ功無シトハ、太公ノ言ナリ。近キヲ釈シテ遠キヲ謀ル者ハ、勞シテ功無シト云ヘリ。是レ先生ノ甚ダ憂ヘトシ玉ヘル処ナリ。文徳ヲ本トセズ、武備ニ泥ルトキハ、漫ニ兵ヲ動カシテ、變ヲ拓クノ類ニシテ、学者虚遠ニ驚キテ近ク思ハズト云フガ如キナリ、（○故ニ）勞シテ功無シト云ヘルナリ。

此の三篇は本を論じて用を悉くす。能く学び能く習ふときは、大小精粗尽くさざること無し。

△先生此ノ三篇ニ於テ、専ラ其ノ本原トスル処ヲ論ジ、然モ其ノ用々ヲ悉ク挙ゲ玉ヘリ。故ニ此ノ書ヲ採リテ能ク学ヒ能ク習フトキハ、大事小事精備粗略、尽クサザル所無キナリ。此ノ内チ能クノ二字、肝要ノ骨子ナリ。悉ハ審ナリ、尽ナリ。

後來同志の学徒、熟読翫味せば則ち久しくして其效有るを知らんか。丙申秋九月日

△後來此ノ学ニ志ヲ同スル学者、熟ク読ミ常ニ翫デ其ノ味ワヒヲ会得セバ、一朝ニ其ノ意味ヲ理會無クスルコトナ

ケレドモ、月ヲ重ネ年ヲ追テ效シ有ルコトヲ始メテ悟ルベキトナリ。必ズ優游涵養シテ修練ノ功有ルトキハ、其ノ実ヲ得ルノ效シヲ知ルヲ得ベシトナリ。丙申ハ明曆二年ナリ。先生語類序ニ曰ク、丙申手鏡要録・武教本論成ル、茲ニ於テ兵法ノ初終、大ニ全シト、云云。」（三ウ）

武教本論

△此ノ本論ハ上中下三篇ノ題号ナリ、武トハ神武ノ武、教トハ道ヲ以テシ、入ヲ教フルノ教。本トハ三才ノ根本、論トハ其ノ元本ヲ推論セルナリ。此ノ書ハ山鹿素行先生、問世ノ英才ヲ以テ武門ノ本原ヲ推論セリ。上天理ヲ考ヘ下地形ヲ量リ、中人用ヲ探テ武教要録并別集ヲ著シ、古今ニ亘リ漢志ヲ探リ、和紀ニ本ヅキ其ノ理其ノ形其ノ用尽クサザルヲ謂フ所ナシ。要録別集ノ内ニ於テ猶ヲ其ノ本原ヲ論ジテ三篇トシ、上篇ニ（大原）三章、中篇ニ主要九章、下篇ニ戰略七章ヲ著シ、題シテ武教本論トナルナリ。上トハ上中下ノ上篇ナリ。

大原

△大ハ大統ニテ大ニ都ヘ、三才ノ本原ヲ統ヘテ含蓄スルノ大ナリ。万物衆理統撰セズト云フ事無シ。大綱本紀ノ大ナリ。原トハ、モトヅク、タヅネルナリ。易ニ曰ク、比ハ吉、原筮スルニ永負ニシテ咎無シ。伝ニ曰ク、故ニ必ズ占ヲ推シ原ル、淮南子第一ニ道原訓ノ註ニ曰ク、原ハ本ナリ。道ニ本ヅキ真ニ根ザシ、天地ニ包裹シテ以テ万物ヲ歴ス、陳約曾古文矜式ニ曰ク、原ハ以テ理ヲ原シテ精嚴ニシテ貴ブ。而シテ直ニ本原ニ造ルコト云云、故ニ此ノ大原ハ人原・道原・事原ノ三本原ヲ統テ大原ト題セルナリ。

人原

△人トハ両間中ノ靈長ナリ、故ニ本論上篇第三原ノ始メニ置ケリ、乃チ本文ニ所謂ル万物」（四才）ノ靈天地ノ粹ヲ得、理氣ノ正シキヲ稟クルノ人ナリ。原ハ乃チ人ノ人タル処ニ推シ本ツキ、推シ原ヌル原々ノ字、始ニ云フガ如シ。

天地の間、理氣を合して其の形を生じ其の用を成す者甚だ多し。而して人を以て万物の靈と為すは尤も由有るかな。史学提要ニ曰ク、天地未ダ分レズ、惟レ一氣ノミ。一氣渾沌トシテ形チ鷄子ノ如シ。既ニ判ケテ両儀ノ位ヲ奠メ、陽ハ清テ天トナリ、陰ハ濁リテ地トナル。人其ノ中ニ生マル。○朱子ノ曰ク、天ハ陽ナリ、至健ヲ以テ上ニ位ス。地ハ陰ナリ。至須ヲ以テ下ニ位ス。○先生曰ク、天地ハ引用ノ大形ナリ。△天地ノ間トハ天地ノ両間ヲサシテ云フナリ。△理氣ヲ合ストハ、理氣ハ天地ノ天地タル所ヲ謂フナリ。此ノ理有ルトキハ此ノ氣有リ、天地ハ元ト生々息無クヲ必トス。其ノ氣タルコト天地ノ間ニ塞リ、其ノ氣タルノ條理有リテ賦カズト云フ処ナク、其ノ理氣妙合シテ形ヲ生ズ。○先生語類（四十三、聖学十一卷）理氣妙合ノ義ヲ委ク弁ゼリ。氣ヲ天ニ受ケテ形ヲ地ニ稟ケ、理氣混同シテ隔テ無シ。○朱子ノ曰ク、天地ノ氣、両間ニ塞リテ人物ノ資ケ以テ体ヲ為ス所ノ者ナリト云フ、是ナリ。△而シテ其ノ形ヲ生ズルトハ、天地ノ間、理氣妙合シテ其ノ形ヲ生々スルナリ。万物氣ヲ天ニ稟ケテ形ヲ地ニ生ズ、易ニ象曰ク、大ナルカナ、乾元万物資リテ始ム、品物形ヲ流レ至ルカナ。坤元万物資テ生ズ、品物成ク亨ルト云フ、是ナリ○朱子曰ク、理ト氣ト合フ故ニ能ク形ヲ成スト云ヘリ。△其ノ用ヲ成ス者甚だ多シトハ、此ノ形ヲ生ズルトキハ此ノ用有リ。理氣一タビ合シテ此ノ形ヲ生シ、此ノ形ヲ生ズルトキハ、物各ノ其ノ用有リ、易ノ註疏ニ天ノ体ハ徒ヲ以テ用ト為スト言フガ如シ、甚だ多シトハ、品物衆多ト云フ心」（四ウ）ナリ。必竟陰陽上下ノ間ニ理形用

ヲ為ス。物、万品ナリト。資ケテ生ジ、資ケテ始ムル処ノ原本ヲ云フナリ。多シトハ、書ノ泰誓ニ惟レ天地ハ万物ノ父母ナリト云フガ如ク、天地ハ万物衆多ノ父母ニシテ生々息ムコト無ク、常ニ其ノ用ヲ成ラシムルトナリ。此ノ篇ハ人原ニテ人ノ万物ニ秀出シテ、靈長タル処ヲ云ハンガ為ニ此ノ如ク云ヘルナリ。△而シテ人ヲ以テ万物ノ靈ト為スハ尤モ由有ルカナトハ、書ノ泰誓ニ惟レ人ハ万物ノ靈ト云フ、是レナリ。乃チ理氣ヲ受ケ形ヲ生シ、用ヲ為ス。モノ天地覆載ノ間、甚ダ衆多ナル、中ニ而モ人ヲ以テ万物ノ靈ナリトスルハ、玄モ上ニ云フ処モ而リト云ヘドモ、別テ人ヲ以テ靈ナリトスルハ、由リ処有ルコトナリト。猶ホ下ニ断タン為ニ、尤モ由ヘアルカナト云ヘルナリ。韓退之曰ク、上ニ形ル者、之レヲ天ト謂フ。下ニ形ス者、之レヲ地ト謂フ。其ノ両間ヲ命スル者、之レヲ人ト謂フガ如キ、是レナリ。

人は天地の粹を得て、理氣の正を稟く。

△粹トハ至粹ナリ、純粹ナリ。易ノ文言ニ中正純粹ニシテ精シキナリト云フノ粹ニシテ、而モクワシキナリ。張氏ノ西ノ銘ニ天地ノ師ト云フノ語意ナリ。又タ精疎ノ疎ニ対スベシ。正トハ物ニ偏正有リ。○朱子曰ク、惟レ人ナリ。其ノ形氣ノ正ヲ得、是コヲ以テ其ノ心最モ靈ニシテ、以テ性命ノ全体ニ通ズルコト有リト云ヘリ。偏ハカタ／＼ナル心ナリ。乃チ鳥獸虫魚ノ類ナリ。人ハ天地ノ理氣ノ粹正ヲ稟ケ得タル故ニ万物ノ靈長ナリ。上ニ所謂ル靈ハ靈明ナリ。由ルコト有リトハ、天地ノ純粹理氣ノ中正ヲ稟ケ得レバナリ。」（五才）

故に仰ぎて天を觀、俯して地を察し、中にして人物に因りて不易の道源を用ふれば則ち

△故トハ上ヲ受ケ下ヲ起スノ言△仰ギテ天ヲ觀、俯シテ地ヲ察シトハ、易ノ係辞上篇ニ曰ク、仰テ以テ天文ヲ觀、

俯シテ以テ地理ヲ察ス。又タ下篇ニ曰ク、象ヲ天ニ觀、法ヲ地ニ觀ルト云ヘリ。故ニ人トシテ天ニ日月星辰昼夜陰陽上下ノ變化ヲ推スナリ。地ニ万物・生殺・南北・高深ノ道理ヲ考ヘ計ルナリ。△中ニシテ人物ニ因リテトハ、中ハ上天、下地ノ中間ニ居シテト云ヘル義ナリ。人物ハ人倫万物ノ道理ニ因リ從ヒテト云フ義ナリ。因リテ從フナリ、其ノ性ヲ率ルノ心ナリ、△不易ノ道源ヲ用フレバトハ、不易ハ開闢ヨリ以來、万古不易ナルモノハ道ナリ。道ハ大路ナリ。○先生ノ所謂ル日用、共ニ由リテ当サニ行フベキ所ナリ。日用皆天道ニ出ヅ、天能ク運、地能ク載セ、人物能ク云ヒ為ス。各ノ其ノ道有リテ違フベカラズ、是レ道源ノ用ナリ、源ハ道ノ道タル本源ノ義、ミナモト源ナリ。

大小精粗通ぜざる所なく、古今の事物窮めざる所なし。其の妙、噫大なる哉。

大義小才精緻粗略、人トシテ通徹セズト云コトナク、古往今來事々物々窮メ尽サズト云コト無シ。人ハ天地ノ粹、理氣ヲ正スヲ以テ天地ヲ觀察シテ、性ニ率フノ道ヲ以テ日用トセルガ故ニ、大小精粗古今事物通徹究理セザルコト無シ。是レ則チ万物ノ靈長トスルユヘナリ。其ノ神妙不測、噫大ナルカナト、稱歎セル言ナリ。

是れ人の天地に参なる所以なり。」（五ウ）

△中庸二十二章ニ曰ク、以テ天地ノ化育ヲ賛ズルベクンバ、則チ以テ天地ト参ナルベシ。夫レ人ハ天地ノ小天地、本ト天地ノ正氣ヲ受ケ得ル故ニ頭ノ円ハ天ニ象リ、足ノ方ナルハ地ニ形リ、両眼ハ日月ニ比シ、百会ハ北辰ニ法リ、鼻ハ山ニ等リ、毛髮ハ草木ニ准シ、便尿ハ江河ニ同ジク、五臟ハ五行ニ応ズ。是レ天地ト同氣同徳ノ驗ナリ。○朱子ノ曰ク、参トハ天地ト並ビ立チテ三ト為ルヲ謂フナリト云ヘルナリ。上ニ所謂ル粹正ナルカ故ナリ。偏ニ生氣ヲ受ル者ハ鳥獸虫魚ニシテ、頭ノ横ニ着テ俯キテ行フ故ニ、横生ト云フ。塞グル氣ヲ稟テ生ズル物ハ、草木ト生リ非

情ナリ。首ヲ根トシ、肢体ヲ枝葉トス。故ニ連生ト云フ。人ノ生ト云ヘドモ、清濁ニ依テ知愚邪正有レドモ、本人ハ天地ノ粹正万物ノ靈長、天地人並ビ立テ、三ツナル所以ナリ。

質に男女強弱有り、用に貧富尊卑あり、而して道離るるべからず。

△質トハ生マレ得ル処ノ質ナリ。○朱子ノ曰ク、其ノ氣質ノ稟タルコト、或ハ齊フコト能ハズト云ヘルガ如シ。稟クル処ノ質ニ、又タ男女強弱有ルナリ。△男女強弱有リトハ、易ノ係辭上ニ曰ク、乾道男ト成リ、坤道女ト成ル。○先生ノ曰ク、理氣交感シテ、万物生ズ、其ノ間陽ニ根ザスハ（○男トナリ）陰ニ根ザスハ女トナルト云ヘリ。其ノ理氣始合ノ過不及清濁ニ依テ、剛強柔弱ノ齊シカラザル有ルナリ。賢愚モ別レルナリ。皆ナ稟クル処ノ質ニ在ルナリ。△用ニ貧富尊卑有リトハ、日用当然ノ間ニ於テ、又貧（○乏）富福ノ別レ有り。尊（○貴）卑賤ノ差有り。皆ナ是レ天命ニ因ルコトニシテ、一事モ私ニ移シガタキ処ナリ。△道ハ離ルルベカラズトハ、中庸ニ曰ク、道ナル（六才）者ハ須ラクモ離ルルベカラザルナリ。離ルベクハ道ニ非ザルナリト云フガ如シ。須臾^{シバラクモ}離ルルベカラズ、人トシテ此レニ須臾クモ放失スル処有ルトキハ、人ト云フベカラズ、故ニ道ハ離ルルベカラズト云フナリ。

其の志、厚薄の差有りと雖も、人として道に由らざるときは殆んど絶て、富貴寿健も皆な其処を得ざるなり、何ぞ取るに足らんや。

△其ノ志、厚薄ノ差有リト雖モトハ、其ノ志ス処、人人厚キ薄キノ差別有ト云ヘドモトナリ。△人トシテ道ニ由ラザルトキトハ、人タル者、道ニ由ラザルトキハ、日用常行何レヲカ歩ミ、何レノ処ヲカ行ハン。△人道殆ンド絶ユトハ、人道トハ人ノ人タルノ道ナリ。殆トハ近ナリ、危ナリ。未ダ顛仆セザレドモ逼リ近ツケルヲ云フ。人ノ人タ

ル道、既ニ絶滅セントセルトナリ。△富貴寿健モ皆ナ其処ヲ得ザルナリトハ、人タル者好樂スルノ大ナルハ、富貴寿健ノ四ツニ出ザルナリ。○孟子ノ所謂ル爵齒徳ト云ヘルガ如シ。富録・貴爵・寿考・健剛、是レ人道ノ大望ナリ。然レドモ此ノ四ツヲ得ルトモ、人道ニ離ルルトキハ、皆ナ其ノ処置咸ク相違シテ其ノ節ヲ失ヒ、何ゾ取り用キル所有ランヤトナリ。○孔子ノ曰ク、富ト貴トハ是レ人ノ欲スル所ナリ、其ノ道ヲ以テ之レヲ得ザレバ処セザルナリ。

人道の用大なるかな

△実ト二人道ノ要用大ナルカナ、畢竟天地ニ參ナルモノハ、此ノ道アルヲ以テナリ。然ルトキハ道ノ用甚ダ大ナル義ナリト、哉乎ト文字ヲ重ネ云ヘルナリ。

其の間、豪英至粹の聖有りて智能く三才に通じ、徳能く万物を育し、行能く天下に效ふときは億兆の君師となり、
 (六ウ) 万世の法制となる。

△其ノ間トハ、天地生々息マザルノ間ナリ△豪英トハ、豪ハ俊ナリ、スグル、ナリ。英モ俊ナリ、スグル、ナリ。
 〈字彙ニ才ハ万人ニ勝ル、英ト曰フ〉至粹ノ聖トハ、豪英至粹ト至リテ、純粹ノ聖人、出世シテ天地ト並ビ立チテ人ヲ導キ、教ヲ施サル、トナリ。△智能ク三才ニ通ジトハ、智ハ聰明叡智ノ智ナル故ニ、能ク三才ニ通ルナリ。三才ハ天人地ノ三才ナリ。△徳能ク万物ヲ育ストハ徳ノ其ノ化、天地ニ充チテ万物ヲ育撫ス。△行能ク天下ニ效フトハ、其ノ行跡、万民^{コソツ}挙テ標準トスベキヲ云フ。效スハナラワシ、法ルベキヲ云フ。△億兆ノ君師トナリ、万世ノ法制トナルトハ、億八十万ヲ億ト曰フ、十億ヲ兆ト曰フ。右ノ数ナリ。詩ニ禾三百億兮、鄭玄ガ註ニ二十万ヲ億ト曰フ。孔穎達註ニ万々ヲ億ト曰フ。秦ノ時、始メテ万々ヲ以テ億トナルナリ、君師ハ君トシ師トシテ、万々ノ億兆ニ法制

ヲ垂レ施ストナリ。○朱子大学序ニ、億兆ノ君師トナルト云フ、是ナリ。万世ノ法制ハ、法ハ法ノツトルヘク、制ハ制度ナリ。ノリ有ヲ云フ、法制二字トモノリナリ。

其の道は則ち天地の道、徳は則ち天地の徳、行は則ち天地の行、法は則ち天地の法、

道徳行法、皆ナ天地ヲ以テ法ル。○先生ノ曰ク、天地ハ是レ師ナリト云ヘル、同意ナリ。中庸ニ動キテ世天下ノ道トナリ、行キテ世、天下ノ法ナル。言ヒテ世天下ノ則トナルト云ヘル語意ナリ。

聖聖相統きて皇極の建つ所なり。」（七オ）

聖々相統キテトハ○朱子ノ中庸序ニ聖々相様ト云ヘルニ等シ。○楚ノ莊王ノ曰ク、世ヨ聖ヲ絶ズト云ヘル如ク、世々相統キ連綿トシテ聖々其ノ法則ノ絶ザルコト、和漢トモニ談ズベシ。△皇極ノ建ツ所ナリトハ、○朱子ノ中庸序ニ、天ニ継ギ極ヲ立ツト云ヘル心ナリ。又タ、書ノ洪範ニ皇^{キミ}、其ノ有極ヲ建テ註ニ曰ク、皇ハ君ナリ、建ハ立ナリ。極ハ猶ホ北極ノ極ノゴトシ。至極ノ義、標準ノ名ナリ。中立シテ四方ノ正ヲ取ル所ノ者ナリ、言フココロハ、人君当サニ人倫ノ至リヲ尽スベシ。父子ノ親、夫婦ノ別、兄弟ノ愛ヲ語リテ極メテ則ヲ取ル。焉ンゾ一事一物ノ接、一言一動ノ発モ義理ノ当然ヲ極メ、一毫ノ過不及ノ差無キトキ、極ヲ建ツト云ヘリ。殊ニ吾ガ本朝ノ皇極、神聖世々相継ギテ天地ト窮マリ無キコト慎ミテ考フベシ。

道原

△道原トハ○先生ノ所謂ル不易ノ道原ヲ用キルト云フノ道原ナリ。淮南子ニ道原訓有リ。韓愈ガ原道ノ書有リ。皆

ナ道ノ本原ヲ論ゼルナリ、此ノ道原ハ人人日用常行ノ本原ヲ論ジテ、則チ人道ト次第シテ人原ノ次ニ道原ヲ序テルナリ。○先生道原ノ説、別ニ出ヅ。

道なる者は造作する所無し。其の出づる所皆な天の誠なり。

△道ナル者ハ造作スル所無シトハ、○先生ノ曰ク、聖人ノ道ハ人道ナリ。古今ニ通ジ上下ニ亘リ、以テ由リ行フベキナリ。若シ作為造設ニ涉リ、我レ行フベク彼レ行フベカラズ、古ヘ行フベク今行フベカラザレバ則チ人ノ道ニ非ズ。性ニ率フノ道ニ非ズト云ヘリ。大路ニ於テ、何ゾ造作スル所有ランヤ。△皆、天ノ誠ナリトハ、中庸ニ曰ク、誠ハ天ノ道ナリ、一（七ウ）之レヲ誠トスル者ハ、人ノ道ナリ。誠ナル者ハ勉メズシテ中、思ハズシテ得、従容トシテ道ニ中ルハ聖人ナリ。必竟此ノ語ヲ■シテ、道ハ皆天ノ誠ナリト論ゼリ。自然ニ出テ、皆造リ設クルコトニ非ズトナリ。

事物各の天地の準繩有りて、已むを得ずして、誠を以て之れを推すときは物有り則有り。

△事物各ノ天地準繩有リテ已ムヲ得ズトハ、一事一物モ皆ナ各ノ天地ノ方円ヲ以テ準繩トナル。至誠自然ノ規矩ヲ用ル、是レ已ムヲ得ザルナリ。準繩ノ文字、孟子ニ出ルナリ。△誠ヲ以テ之レヲ推ストキハ物有り則有りトハ、万事万物天地至誠ノ道理ヲ以テ、之レヲ推シ考フレバ則チ物ト有レバ則有ルナリ。詩ノ烝民ノ篇ニ天烝民ニ生ジ、物有り、則アリ。

愚者は及ばずして通ぜず、知者は過ぎて鑿す。故に過不及の差有り。

△愚者ハ及バズシテ通ゼズトハ、愚ナルガ故ニ事物ノ道理ニ其ノ知ニ及バズシテ通ゼザルナリ。日用当然ノ間ニ於テ、事ニ不足ス。^{フスウ}△智者ハ過ギテ鑿ストハ、知ニ過グル者ハ却ツテ事物ノ道理ヲ穿鑿^{ウカチエレル}如クニ成ル故ニ、日用当然ノ間ニ於テ、其ノ節ニ非ズ。不及ト過トハ、共ニ中道ニ非ズ。△故ニ過不及ノ差有リトハ、通ゼズト鑿ストハ中ヲ失フガ故ニ故ト云フ。過不及ノ差トハ、論語先進ノ篇ニ出ツ。又タ中庸ニ智者ハ之レニ過ギ、愚者ハ及バザルナリト云ヘルナリ。智愚自カラ差フナリ。

聖人は教を立て師を設けて、後覚の者をして先覚の人に因りて、天地の本に原かしめ

△聖人教ヲ立テ師ヲ設クルトハ、過不及ノ差無キコト能ハザルガ故ニ、聖人出テ教ヲ立テ、師ヲ設^一（八才）ケテ万民ヲ導クルナリ。△後覚ノ者ヲシテ先覚ノ人ニ因リ天地ノ本ニ原カシメトハ、後覚ハ吾レヨリ先進ノ覚ニ因順親炙ニシテ道ヲ問ヒ、天地ノ天地タル、本原ヲ究理セシムルナリ。天地ノ本トハ誠ナリ。其ノ出ル処、皆ナ天ノ誠ナリト云ヘルトキハ、天地ノ本[■]指ス者ハ誠ノ一事ト知ルベキナリ。中庸ニ曰ク、誠ハ天ノ道ナリ。易ニ曰ク、地ノ道ヲ立ツト。中庸ニ曰ク、之レヲ誠ニスル者ハ人ノ道ナリト云フ。皆ナ天地ニ原ヅク所ハ、誠ノ一字ナリ。○先生曰ク、道ノ大原ハ天地ニ出ヅ、云云。

内能く誠なるときは、外自ら其の形用に顯はる。道は唯だ思ひて成るべからず、行ひて始めて成る。

△内能ク誠ナルトキハ、外自ら其ノ形用ニ顯ハルトハ、人タル者、性心内ニ誠ナルトキハ、自然ニ其ノ形容誠ニシテ、其ノ用所ハ実ナリ。内ニ誠ニ非ズシテ、一旦外貌、誠有ルニ相似ル者有ルト云ヘドモ、久シカラズシテ變ズベシ。内ニ誠ナルトキハ、一旦外貌誠ナラザルニ相似ル者有リト云ヘドモ、久シクシテ自然ニ誠ノ形用顯レズト云コ

ト無シ。其ノ誠ハ内外一致スルトキハ道行フト云ベシ。△道ハ唯ダ思ヒテ成ルベカラズトハ、心底ニ思慮ノミニテ、其ノ形用ニ道有ラザレバ、乃チ不道ナリ。何ゾ道成リト云ハンヤ。唯ダ日用当行ノ間、須臾モ離レズ、其ノ道ヲ行フヲ以テ道ノ用タリ。心ニ思ヒ身ニ行ハザレバ、道ト謂フベカラズ。故ニ△行ヒテ始メテ成ルトハ云ヘルナリ。道ハ思フニ成ラズ、行フニ成ルトノ一勾（ママ）、此ノ章ノ明戒ハ乃チ道原ノ骨子ナリ。

事原

△事トハ、天地人ノ三才ナリ。事ハワザナリ。人道日用当行ノ間、此ノ事業ニ出ズ。天ハ（八ウ）陰陽五行、地ハ形勢高下、人ハ万物ニ父母タル処、是レ事原ナリ。原ハ前ニ解スルガ如キナリ。

天は陰陽五行、相剋相生の相因るを以て、已むを得ずして循環するのみ。

天ハ陰陽五行相剋相生ノ相因ルヲ以テトハ、太極動キテ陰陽分ル、陰陽分レテ五行生ズ。五行生ズルトキハ、相剋相生ノ變有リ。天地人物陰陽五行生剋ノ外ニ出ルコト無シ。書ノ洪範ニ曰ク、一ニ五行、水火木金土。白虎通ニ曰ク、五行ハ何ヲカ謂フ、金木水火土ナリ。行フヲ言フ者、天ト為リ氣ヲ行フノ義ヲ言ハント欲スルナリト云ヘリ。相剋ハ相向キテ數ズルモノ、木剋土、土剋水ナリ。相生ハ相須テ生々スルモノ。水生木、木生火ナリ。陰陽五行ノ須逆、相向キ相因リテ天道成ル。△已ムヲ得ズシテ循環スルノミトハ、人事ノ作為ヲ以テ、強テ是ヲ成スニ非ズ。自然ノ天理已ムコトヲ得ズシテ循環ト相メクルナリ。相メクルガ故ニ、生々息ムコト無キナリ。

其の間、唯だ水火の用にして見来れば則ち生々息むこと無きなり。

△其ノ間、唯ダ水火ノ用ニシテトハ、其ノ間ハ已ムコトヲ得ズ須環スルノ間ナリ。唯ダ水火ノ用ト云、此ノ語甚ダ重シ。天地ノ間、潤下シ炎上シ、陰陽五行日用ノ当然、水火ノ二ノ用ノミナリ。先ズ水火ノ大形ハ日月ナリ。水ハノ方存スルハ北南ナリ。人ニ於テハ心火、腎水ナリ。人物日用ノ間、物ヲ成就スル、皆ナ水火ノ功ニ非ズト云フコト無シ。陰陽五行ノ用ヲ為ス。唯ダ水火ノ二ツヨリ木金土ヲ師スルガ故ニ、其ノ間唯ダ水火ノ用ト云フナリ。○先生曰ク、水火ハ（九才）五行ノ生ナリ。水火象有リテ形無シ。相對流行シテ離變尽キスト、云云。△見來レバ生々息ムコト無シトハ、陰陽代謝、四時流行万物變化スル開闢ヨリシテ、見テ來タレバ、生々息ムコト無キハ、水火ノ功、其ノ用大ナリト云ヘル義ナリ、下ニ又其ノ品々ヲ論ゼリ、

地に受けて温暑冷寒、雨露霜雪、風雷水旱を為し、

△地ニ受ケテ為ストハ、天理自然ノ陰陽五行ノ功用、地氣之レヲ受ケテ其ノ行ハル、処、此ノ如キナリ。春秋ハ温冷ガ行ハレ、夏冬ハ暑寒ガ行ハル。雨水テ雪ト成リ露凝リテ霜トナリ、水火相因リテ風ヲ生シ、水火相撃チテ雷ヲ起コシ、水損旱災、各ノ水火ノ變化功用ニ非ザル事無キナリ。

人にて豊凶災祥、盛衰興亡を為す。

△人以テ為ストハ、人道ニ於テ、此ノ變化有リ。年ニ豊年凶年、国ニ水火災難、物ニ祥瑞、世ニ盛長衰微、人ニ興起亡滅有リ、皆ナ人事ニ受ケテ用有ル処、此ノ如キナリ。

聖人之れを制して四時を建て、年月日時を設け、四方を定め八卦を分かち

△聖人之レヲ制シトハ、天地ノ間陰陽ノ変化究マリ無キ故ニ、聖人出テ之ヲ制セラル、ナリ。制スルトハ、人道ニ於イテ程能ク受ケ、用ヒルベキ制度ヲ定ムルナリ。書ノ堯典ニ、欽ミテ昊天ニ若ガヒ日月星辰ヲ曆象シ、敬スルニ人ノ時ヲ授クト云ヘリ。△四時ヲ建ツトハ、春夏秋冬ナリ△年月日時ヲ設ケトハ、年ハ十二月、月ハ三十日、日ハ十二時、時ハ十二刻ト年月日時ヲ定メシナリ。又タ曰ク、トシノメクリ「暮 三百有六旬」（九ウ）有六日ノ閏月ヲ以テ、四時ヲ定メ、歳ト成ルト云ヘリ。△四方ヲ定メ八卦ヲ分カチトハ、四方ハ東西南北ノ方位ヲ定メ、八卦ハ史ノ本紀ニ曰ク、庖犧氏始メテ八卦ヲ尽シテ以テ神明ノ徳ニ通ズト云ヘリ。乃チ乾ノ戌亥、兌ノ酉、離ノ午、震ノ卯、巽ノ辰巳、坎ノ子、艮ノ丑寅、坤ノ未申、四方四隅ノ八方十二支ヲ分配セル、皆ナ易ニ出テ、上古ノ聖人之レヲ制シ玉ヘル処ナリ。

古今を考へて損益を知り、昼夜を以て守休を為し、代謝を以て変易を為し、成敗を糺すに時を以てす。天の時の用大なるかな。

△古今ヲ考ヘテトハ、聖人古往今来ヲ考量シテ△損トハブキ、益トマシテ、其ノ事物ノ程能キヲ計リ、定メラル、コト過不及ノ差ヒナシ、論語為政ノ篇ニ子曰ク、殷ハ夏ノ礼ニ因ル、損益スル所知ルベキナリ。周ハ殷ノ礼ニ因ル、損益スル所知ルベキナリト云ヘリ。△昼夜ヲ以テ守休ヲ為シトハ、昼ハ人以テ業ヲ勤メ守リ行フ、夜ハ人以テ業ヲ已メ休息ス。△代謝ヲ以テ変易ヲ為シトハ万物代謝ト葉落チテ下ニ芽ヲ含ミ、寒去リテ暖来タル。日入りテ月出テ四時須行、昼夜更々行レ、其代謝カワリツクノ間ニ於テ、（原本左側ニルビ）変化交易更ニ息ムトキ無キナリ。△成敗ヲ糺スニ時ヲ以テストハ、三略ニ曰ク、夫レ聖人君子、盛衰ノ源ヲ明ラカニシ、成敗ノ端ニ通ズト云ヘリ。成ハ事物ノ成就スルナリ。敗ハ事物ノ敗壞スヘキナリ。用捨ノ二機、是レヲ糾明スルニ天ノ時ヲ用ヒルコト、時ニ非ズト云コト無シ。君子其ノ

機ニ暗キトキハ、成スコト必ズ敗ル。論語ニ民ヲ使フニ時ヲ以テスト云ヘリ。民事・時代・運氣ヲ考ヘテ成ラザレバ成就セズ。天ハ時ナリ、事原ノ第一、天ヲ云フ、天ハ時ヲ天ノ事業ノ第一トス。」(一〇才)故ニ時ヲ以テ天ノ時用大ナルカナト論ゼルナリ。書ニ曰ク、敬シテ人ノ時ヲ授クハ、又タ易ニ陰ノ時用大ナルカナ。

地は静にして平らかなり。自然の形有り、自然の勢有り。形に高下險易広狭長短有り、勢は木石泥水を以てなり。

△地ハ静カニシテ平ラカナリトハ、地タルノ全体ヲ云フナリ、地ハ動カザルヲ体ト為ス、能ク厚平ナリ。元氣初メテ分レテ、重ク濁レルハ、陰^{シツ}テ地トナル。△自然ノ形有ルナリ。其ノ形有ルトキ、△自然ノ勢有ルナリ。△形ニ高下險易広狭長短有リトハ、自然ノ形有リト云フノ積ナリ。皆ナ字ノ如シ。長短トハ遠近ナリ。△勢ハ木石泥水ヲ以テナリトハ、自然ノ有ルト云フノ積ナリ。皆ナ字ノ如シ。

人之れを用ひて便要有り、各の自然の形勢有り、設為の形勢有り。

△人用ヒルノ便要有リトハ、(万)民之レヲ用ヒテ便利要所ヲ為ス。皆ナ土地ニ洩ルルコト無シ。△各ノ自然ノ成レル処ノ形勢モ有リ。又タ人功ヲ用ヒテ設ケ、為ス処ノ形勢有り。仮令ハ自然ノ形勢ハ山城ノ如キナリ、設為ノ形勢ハ平城ノ如キナリ。木石自然ニ生ルル有リ、集メテ成ス有リ、泥水モ自然ニ有ル在リ、楅シテ成ス有ルナリ。

聖人俯して地理を察し、圜(古文の国なり、唐の武后作)郡を制し、山川を限り経界を正し、田制を定め、遠近を以てして俗を考へ、迂直を以て用を正し、建つるに三才同一の法と為す。

△聖人俯シテ地理ヲ察ストハ、前ニ仰俯ノ義ヲ出セリ。爰ニ云フハ地理ヲ鑑察シテ、制度(一〇ウ)ヲ正セルヲ

云フナリ。△国郡ヲ制シトハ、国ハ国々ナリ、郡ハ一国中ニ郡ノ分カチ有ルナリ。国ハ郡国通シテ称スルナリ。周礼ノ秋官ニ九列ノ外ヲ家国ト謂フ。郡ハ群ナリ、人ノ群集スル所ナリ。周制ニ天子ハ地方千里分カチテ四縣タリ、縣モ四郡有リ。聖人皆ナ之レヲ制シ、其ノ宜キニ称シム、△山川ヲ限リトハ、国郡ヲ制スル、必ズ山川ヲ際限シテ、分部スルナリ。山ハ高大ニシテ石有リ、山ト曰フ。又タ産ナリ。氣ヲ散ジテ以テ万物ヲ生ズ。川ハ水ノ流ルルナリ。山川ノ利ヲ制シテ、人ニ分限スルナリ。△経界ヲ正シトハ、郡里郷村ノサカイヲ正シク定ムルナリ。経ハ家語ニ南北経ト為ス。縦ナリ。界ハ分画ナリ。カギル、分国ノ経界ナリ。△田制ヲ定メトハ、古来ニ井田ノ法有リ。農ヲ以テ分賦スルニ、田畠ノ制度定メザレバ民間禁シ難シ。皆ナ各ノ人ヲシテ争論訴訟、盜竊ノ義、勿ラシムルノ法ナリ。△遠近ヲ以テ俗ヲ考ヘトハ、舜典ニ遠ヲ柔シ、通ヲ能クセヨト云ヘリ。都鄙遠近ノ差別ニ依テ、風俗異ナリ、畿内畿外ニ於テ、其ノ風土ニ從ヒ、俗ヲ考ヘザレバ用ヲ為サザルナリ。上ノ行ヒ下ニ效フ、之レヲ風ト謂フ。衆心安ンジ定ムル、之レヲ俗ト云フ。△迂直ヲ以テ用ヲ正シトハ、迂ハ回ナリ、曲ガルナリ。直ハ正シキナリ。曲直ヲ以テ、其ノ浅用ヲ正サザレバ用ヲ為サザルナリ。△建ハ立ナリ。△三才同一ノ法トハ、三才ハ天地人ノ三才ナリ。天ハ理ナリ、地ハ形ナリ、人ハ用ナリ。地制ヲ正シテ上ミ天ニ法リ、中ガ人ニ正シ、下地ニ因リテ同一理ノ法則ヲ為スベキトナリ。建ハ中ニ在リテ聖人法度ヲ建テ、以テ三才同一トナラシムルナリ。

人物は天地の有にして、天地は万物の父母なり。」（一一オ）

△人物ハ天地ノ有トハ、人ハ人倫、物ハ万物。天地ノ有ハ、天地ノ両間ノ中ニ有在スル用物ナリ。△天地ハ万物ノ父母トハ書経ニ出ゾ。万物ノ為■、天地ハ父母ナリ。生々息マザル故ニ父母ナリ。

人に上下知愚有り。物に動植成作有り。

△上下知愚、動植成作ノ八ツ、人物ニ之レ有ルナリ。下ニ委シキナリ。

人に上下知愚有るときは類を分かち官を建て分を定め、教を設けて上下相通じ、知愚互に助けて其の用成る。

△人ニ上下知愚有ルトキトハ、上ニ云ヘル処ノ人倫四品ノ積ナリ、上下ハ君臣ナリ。又タ自然ノ人ニ上下ノ氣品有リ。知愚ハ自然ト人ニサトキト、ヲロカナル有リ。故ニ△類ヲ分カチトハ、類ハ群類ヲ分カチ、党ヲ別ニスルナリ。

△官ヲ建テトハ、官位等爵ヲ立テ定メテ、貴賤ヲ次序スルナリ。△分ヲ定メトハ分限ヲ定メテ俸禄ニ大小有ラシムルナリ。△教ヲ設クルトハ、教戒ヲ設ケ示諭ノ法ヲ設ケテ、人ヲ道理ニ従ワシム。△上下相通ジトハ、上ノ情下ニ通シテ下ノ情、上ニ及バシメテ相通スルナリ。△知愚互イニ助ケテトハ、サトキハヲロカナルヲ導キ、愚ナルハサトキニ因須シテ、互イニ相助ケテ、捨ツル所無カラシム。△其ノ用成ルトハ、右ノ如クシテ其ノ用所成就スルナリ。

物に動直成作有るときは鳥獸魚鼈、草木五穀、塩石金玉、器物造作、各の人以て利と為す。」(一一ウ)

△物ニ動直成作有ルトキトハ、前ニ云ヘル処、動植成作ノ積ナリ。物ニ動トハ△鳥獸魚鼈ノ四ナリ。鳥獸ハ凡テ羽毛ニ足四蹄ヲ云フ。群類推シテ知ルベシ。魚鼈ハ鱗甲ノ有ル物ナリ。其ノ種類推シテ知ルベシ。鳥獸ハ山物、魚鼈ハ水産ナリ。△植トハ、草木ハ千草万木ヲ兼テ云フ。五穀ハ実成リテ人ヲ育スル者、穀ハ必ズシモ五ヲ以テ算フヘカラズ。△成トハ、塩ハシホナリ、石ハ尾石ナリ、金ハ金銀銅鉄、玉ハ珠玉ノ宝物ナリ。△作トハ器物ニシテ用キルベキノウツワモノ、造作ハ宮殿屋宅ノ造作スベキモノ。△各ハ上ニ云フ処ノ動植成作ノ品々、人道日用ニ於テ之レヲ用ヒテ便利ト為スト。故ニ△人_レ以テ利ト為ストハ云フナリ。

其の間天地の準繩有りて、人時^{ヨリ}之れを制す。凡そ一事も亦た一理有り。其の用尤も大なるかな。

△其ノ間トハ、人物用要ノ間ナリ。△天地ノ準繩^リ有リテトハ天地自然ノ準^リトシ、繩墨トシテ、法ルベキノ法度有ルナリ。△人時之レヲ制ストハ、万民日用当然ノ間、之レヲ用ヒテ時々ニ制裁断割シテ取り用ヒルナリ。△凡ハスベテナリ。△一事モ亦タ一理有リトハ、此ノ事有ルトキハ必ズ此ノ理賦セズト云フコト無シ。此ノ物アレバ則チ此ノ理有リ。故ニ物有リ則アリトモ云ヘリ。一事一物ト云ヘドモ、自然ノ準繩ヲ出ズ。自然ノ道理ニ外ルコト無シ。△其ノ用尤モ大ナルカナトハ、人物ハ天地ノ有用、物ハ人倫ノ用ナリ。実ニ其ノ用大ナルカナト云フナリ。」（一ニオ）（一ニウは空白）

武教本論中

主要

主要トハ、主ハ天下国家ノ主将ナリ。三略ニ夫レ主将ノ法ハト云フノ主ナリ。要トハ枢要。天下国ニ主タル人ノク口、カナメトナルベキ処ヲ奉ジテ主要ト論ゼルナリ。乃チ九章二分ツ、君職、三事、警戒、建官、選教、武備、法制、内閣、賞罰ナリ。

君職

君職トハ、君ハ国君、職ハ其ノ君上ノ職掌スル処、国家ノ司命ナルガ故ニ万幾有リテ難キヲ知り勉メテ行ワルベキ処ヲ云ヘルナリ。

人は万物の靈にして、主は人中の靈長なり。

人ノ万物ニ靈タルコトハ上篇ニ出デシ如クナリ。△主ハ人中ノ靈長トハ、四海ニ主タル人ハ四海中ノ人ノ靈タルニ秀出シテ長タル故ニ人中ノ又靈長ト云ヘルナリ。靈ノ又靈ナリ。

耕さずして食し、織らずして衣、造らずして居り、能く万民の上に立つ者は、他無し、民皆な業に厚くして道を知るに暇あらず、其の行教へざれば、則ち禽獸に均し。

国家ニ主タル人ノ貴キヤ、耕サザレドモ食ノ足り、織ラザレドモ居安ク、自ラ逸シテモ万
（二三才）民ノ上ニ立ツハ何ノ所以ンゾトナリ。△他無シトハ、別ノ義ニハ非ズト云フノ心ナリ。下ヲ云ハンガ為ナリ。△民皆な業ニ厚クシテ道ヲ知ルニ暇アラズトハ、民ハ万民ナリ、業ニ厚クトハ農工商ノ人人、業有リテ未ダ人ノ人タル道ヲ知ラズ、厚クトハ業ノミヲサメ今日天倫自然ノ叙次有ルコトヲモ弁ゼザルナリ、道ヲ知ルニ暇アラズトハ、其ノ業ノミヲ勤メテ身ヲ修メ、或ハ師ニ従ヒ、人倫日用ノ行フベキ道有ル義ヲモ知ラザルナリ。△其ノ行教ヘザレバ則チ禽獸ニ均シトハ、万民業ノミニ厚クシテ道ヲ知ラズ、道ヲ知ラザレバ則チ其ノ行禽獸ニ均シ。イカントナレバ導キ教ル人ナキ故ナリ。其ノ教ヲ成スベキガ君職ナリ。民ヲシテ天倫次序ノ大義大道ヲ教テ、人人其ノ処ヲ得セシム、是レ大義ナリ。故ニ耕織工ノ業モ無クシテ、然モ万民ノ上ニ居レル所以ナリ。孟子曰ク、人ノ道有ルヤ、飽食暖衣、逸居シテ教ルル無ケレバ則チ禽獸ニ均シト云ヘル、是レナリ。教ヘ導カザルトキハ禽獸ニ等シキナリ。此ノ一章ハ北条氏長ノ士鑑用法ニモ出デシナリ。

故に其の間に皇極を建て、億兆の民をして天地の準繩に復して、天倫の叙でに悖からしむるなり。

故ニ其ノ間ニ皇極ヲ建テトハ、皇ハ君ナリ。極ハ万民ノメアテトシテ準^イトナル処。建ツルハ立ツナリ。其ノ間トハ人ハ万物ノ靈ナルガ故ニ主タル人道ヲ教フルノ間ナリ、其ノハ君職人道ヲ指スノ其ノナリ。△億兆ノ民ヲシテトハ、万々億々ノ民ナリ。△天地ノ準繩ニ復シトハ、天地自然ニシテ已ムコトヲ得ザルノ則^イ有ルナリ。復スハ反復ノ義ニテ万民ヲシテ天地自然ノ制度」（一三ウ）ニ従ヒ人ノ本元ニ帰復セシムルナリ。△天倫ノ叙デニ悖カラシムルナリトハ、天倫ハ天命自然ノ倫序ナリ。叙ハ次序ナリ。君臣父子夫婦兄弟朋友ノ自然親義別序信ノ叙有ルナリ。是レヲ天倫ノ叙ト云フナリ。悖厚トアツク五倫ノ道ヲ行ハシムルナリ。臯陶謨曰ク、天ガ有典ヲ叙シ我ガ五典ヲ勅ス、五ツトモニ悖シカナト云ヘリ。註ニ叙ハ倫叙ナリ、悖ハ厚ナリ。君トシテ道ヲ以テ教ヘザレバ、則チ人禽獸二等シ。故ニ其ノ間先ヅ君ノ君タル皇極ヲ立テ、万民ヲシテ天道自然ノ物則、制度ニ復セシメ人倫自然ノ叙デニ厚カラシムルナリ。

凡そ主の職は、先づ君たるの難きを知るに在り。

△是レハ上文ノ結語ナリ。凡ソ万民ニ主君トシテハ其ノ職ノ難キコトヲ知ルコト肝要ナリ。△主ノ職ハ君職ナリ。先ハ万事ニ先ズルヲ云フ。△君タルノ難キトハ論語ニ曰ク、君タルコト難ク、臣タルコト易カラズ。モシ君タルノ難キヲ知ラバ、一言ニシテ国ヲ興スコトヲ幾カラズヤ、ト。知トハ事ニ先ヅテ君タルコトノ難ヲ心ニ徹シ、心ニ明ラカニ知ルナリ。難トハ其ノ責全タキ難シト云ヘル義ナリ。

庸主は天下国家を以て人に驕り、富貴を以て安しと為す。故に暇の日多くして日を崇ふるに堪へず、遊燕を設け田獵を好み、耽楽に之れ従ふ。

△尋常ノ主ハ天下ノ広キ国家ノ自由ナルヲ以テ、万人ニ驕リ富ミ、四海ヲ有シ貴ブ。人主タルヲ以テ安逸ニ居シ、君タルノ難ヲ敢テ知ラザルナリ。故ニ唯ダ暇ノ日多ク、常ニ（一四才）為スベキ業モ無キガ故ニ、日々ヲ終ルニ堪ヘカネテ自ラ遊宴不義ノ行ヲ為シ、放鷹狩獵ヲ好ミテ民ノ時ヲ奪ヒ、好色逸樂ニ耽リテ之レニノミ従フトナリ。△庸主トハ、庸愚ノ主ナリ。△人ニ驕ルトハ、人ニタカブリ程ヲ忘ルルナリ。△日ヲ崇フルニ堪ヘズトハ、安逸ナルガ故ニ日々ヲ長シトシテ日ヲ送リカネルナリ。崇ハ終ナリ。堪ハタヘ忍ビヌナリ。△遊宴ヲ設ケ田獵ヲ好ミトハ、燕席ヲ設クルナリ。田獵ハ二字トモニ、カリナリ。△耽樂ニ之レ従フトハ、書ノ無逸ノ語ナリ。註ニ耽ハ過ギテ樂シム、之レヲ耽ルト謂フ。耽ハフケルナリ。逸樂ノヤスキ樂シミニフケリ、日ヲ之レニ此ノ身ヲ従リシタガヘテ置ケルナリ。伊訓曰ク、貨色ニ殉ヒ遊畋ヲ恒ル有ルハ、時レヲ淫風ト謂フト云ヘリ。

稼穡の艱難を知らず、小人の勞を聞かず、佞臣は又主職を務め下情に通ぜざるを以て暗主と為す。

△上文ニ段々云ヘル如キトキハ、主タル人、万民常ニ稼穡ヲ勤ムル難苦ヲモ知り弁ヘズ、小民細家ノ勞苦スルヲ見聞セズ、故ニ佞臣必ズ出来テ国政ヲ務メ執リ行ヒテ、然モ下民ノ情ニ通ゼズ、故ニ暗主トナルナリ。△稼穡ノ艱難ヲ知ラズ、小人ノ勞ヲ聞カズトハ、書ノ無逸ノ語ナリ。稼ハ五穀ヲ樹ツルナリ。穡ハ^{ヲサムル}斂^{ヲサムル}ヲ穡ト曰フナリ。貞觀政要ニ曰ク、一食スル毎ニ便チ稼穡ノ艱難ヲ念ヒ、一タビ衣ル毎ニ、則チ紡績ノ辛苦ヲ思フ。昔ノ良君ハ此ノ如キナリ。△佞臣ハ又主職ヲ務メ下ノ情ニ通ゼザルヲ以テ暗主ト為ストハ、明心宝鑑ニ曰ク、太公曰ク、国ヲ治メテ佞臣ヲ用ヒズ、家ヲ治メテ佞婦ヲ用ヒズ。漢書ニ曰ク、佞人事ヲ用ユレバ争臣（一四ウ）ロヲ杜ツ。六韜ニ曰ク、臣朋党ヲ結ビ賢智ヲ蔽ヒ、主明ヲ障グ者有リ。孟子ニ孔子曰ク、似テ非ナル者ヲ惡ム、佞ヲ惡ムハ其ノ義ヲ乱サンコトヲ恐ルレバナリ。三略ニ曰ク、佞臣上ニ在レバ一軍皆訟フ。其ノ主ノ愚ナルトキハ、佞臣ヲ用ヒテ政道ヲ任セ、

驕リテ下民ノ情ヲ問ハズ。臣又主ノ見聞ヲ障蔽スルガ故ニ、主常ニ昏暗トシテ国家ノ危ヲ知ラザルガ故ニ暗主ト云フナリ。

周公曰く、嗚呼、君子は其の無逸を所とす、是れなり。而して教化を克くす。

△庸主ト云フヨリ暗主ト為スト云フ迄ノ戒、此ノ語ヲ以テ結文ト為ス。乃チ書ノ無逸ノ語ナリ。君子ハ主君ヲサス。無逸トハ唯君道ノ難キ所ヲ弁ヘ力行シテ安逸ニ居ラザル所ヲ君子ノ居ルベキ場トセルナリ。註ニ、動靜食息コトハ是在ラザルコト無シ、是レ其ノ所ナリ。△周公ハ周公旦ナリ。△無逸トハ字ノ如シ。△嗚呼ハ歎息ナリ。△而シテ教化ヲ克クストハ、此ノ如クシテカラコソ教化ヲ克スベキナリ。

古昔ノ隆なりしや、教ふるに人倫の法を以てし、正すに五典の叙を以てす、而して民各の其の職分に安んじ、而して天地に順ひて、在天に対越す。

古昔ノ三代、吾ガ 仁徳、宥仁杯ノ徳化治教ノ隆ナリシナリ。世ハ教ヲ施スコト唯人倫ノ法則ヲ以テシ、人道ヲ正シクスルニ五典ノ叙次ヲ以テシ、万民各ノ吾ガ職分々々ノ勤ムベキニ安ンジテ天地ニ順ヒ、暫時モ私シスル処ナク、在天トハ所トシテ天理天命ノ布カザル所ナキヲ知テ、乃チ越コトニ天ノ在スル如ク戒慎恐懼シテ其ノ独リヲ慎ミシト（二五オ）ナリ。△古昔ハ大学ノ序ニ、古昔ノ隆シ時ト云フニ同ジ。△人倫ノ法トハ、人道ノ大法ナリ。△五典ノ叙トハ五倫ノ叙ナリ。書経ノ文字ナリ。△民ハ各ノ其ノ職分ニ安ンジトハ、大学ノ序ニ、職分ノ当サニ為スベキ所ト云フニ同ジ。臣ノ職ハ忠、子ノ職ハ孝ト云フノ類ナリ。△天地ニ順ヒテ、在天ニ対越ストハ、天地ノ至誠、万古不易生々ニシテ息マザルノ定理ニ従ヒ、天神越ニ在ルニ対スル如ク万民ニ教化ヲ布クヲ云フナリ。詩清廟

篇二曰ク、在天ニ対スル註ニ曰ク、其ノ在天ノ神ニ対越ス、云云。

山川を利し田畝を墾り、教化大いに布き、風俗淳厚なり。

山川ヲ開キテ人民ニ便利セシメ田畝ヲ耕サシメテ、人民ニ業ヲ修メシムル、是レ教化ノ大イニ広ク流布セルナリ。風俗此ノ如キ時ハ自ラ淳厚トス、サラニアツキナリ。△利ハ万民ニ便利スルナリ。墾ハ耕用ノ土ナリ。畝トハ畦ナリ。歩百ヲ畝ト為スナリ。誠ニ君職ノ重キコト此クノ如シ。慎ミテ考フベキナリ。

三事

△三事トハ君職ニ於テ三ノ要有リ。三トハ学知行ナリ。事ハ日用此ノ三ヲ以テ事業トスベキヲ云ヘルナリ。

君職は其の要三つ、曰く学、曰く知、曰く行なり。

△君タル処ノ人ニ肝要ノ枢機三ツ有リ。其ノ名、学知行ト云フナリ。」（一五ウ）

学は古今事物の情に通ずるなり。唯だ書を読むのみにあらざるなり。

△学ハ古今事物ノ情ニ通ズトハ、学ノ字ノ解ナリ。人トシテ古今事物ニ通ゼザレバ暗クシテ禽獸ノ如シ。何ゾ人ノ上タルコトヲ得ン。学ナキトキハ人道ノ大義ヲ知ラザルナリ。天地ノ道理古今ノ事物人トシテ限り有ル才智ヲ以テ究メ尽サンヤ。韓文ニ曰ク、人トシテ古今ニ通ゼザルハ馬牛ニシテ襟裾（セルガ如キナリ）。人トシテ学ヲ知ラザルハ、譬ヘバ牛羊ノ如シ。学ハ元ト古今ノ事万物ノ情ニ達センガ為ノ用ナリ。白虎通ニ曰ク、学ノ言トナルハ覺ナ

リ。知ラザル所ヲ悟ルナリ。△唯ダ書ヲ読ムノミニアラズトハ、学問多クハ読書ヲ以テ学トシ只ダ博識多文ヲ以テ学トス。書ハ古今ノ事蹟ヲ載スル器ナリ。先生曰ク、書ヲ読ミテ以テ之ノ志ヲ学ベバ則チ大益ナリ。書ヲ読ムヲ以テ学ト為セバ則チ物ヲ玩ビ志ヲ喪フノ徒ナリト云ヘリ。唯書ヲ読ムノミニアラザルナリトハ学ノ字ノ戒メナリ。

知は我が知識を明かにするなり。学んで知明かならざれば則ち惑ふ。惑へば暗くして通ぜず。

△此ノ章前ノ知ノ字ノ釈ナリ。知トハ我が知識ヲ明白ナラシムルナリ。其ノ知ヲ明カナラシムル者ハ学ナリ。若シ学ンデ知明ニナラズンバ却テ惑フナリ。論語陽貨篇ニ曰ク、知ヲ好ミテ学ヲ好マザルハ其ノ蔽ヤ蕩ナリ。朱註ニ曰ク、惟レ学ヲ以テ其ノ理ヲ明ニスレバ大知タリ。学ヲ好マザルトキハ隠ヲ索ムルノ知ニシテ其ノ当サニ窮ムベカラザルコト、窮ムルコト有リテ其レ蔽ナリ、蕩ナリト云ヘリ。学知ハ当然日用ノ当行タルコトヲ知ラズ、却テ学知ノ為ニ迷ノ迷ナルトキハ明ラカナラズ、明カナラザレバ則チ暗然トシテ事物ノ理ニ通ズル処ナシ。」（二六才）

行は学知する所を行ふなり。行はざれば則ち学知も用ふる所なし。

此ノ章前ノ行ノ字ノ釈ナリ。行トハ我が学知スル処ヲ直チニ行フナリ。学知スル処、皆ナ日用当行ノ間ニ行ハズンバ虚学ナリ。学知何ノ用ヲカ成サン。聖人君子ノ嘉言善行ヲ学ビ知ルハ、今日身ヲ修メ行ヒ正シカラズンバ無益ナリ。然ルニ惟ダ口ニ誦シ心ニ知ルノミナルトキ、博識ナル処ナク、広才施ス処ナシ。身ニ行ヒ、実ニ用ヒズンバ其ノ蔽却テ禽獸ニ近カルベシ。

此の三事を極めんと欲せば則ち亦三資あり。曰く師、曰く友、曰く臣なり。師を以て其の邪路を正し、友を以て其の

詳を討論し、臣を以て其の効を察す。

△此ノ章前ノ学、知ト行ノ資ケタルベキモノヲ云フ。極ハ窮極至極ナリ。資ハタスケルナリ。曰ク師ハ我ニ師範トシテ道ヲ聞クベキ者ヲ云フ。曰ク友トハ益友ヲ云フ。曰ク臣トハ臣下ヲ以テ明察スベキノ要タルヲ云フ。此ノ三ツハ即チ学知行ノ三事ナリ。大イニ資トスル処ナリ。△師ヲ以テ其ノ邪路ヲ正ストハ、我ガ師範ニ事ヘ道ヲ聞キ、教愈ヲ奉リテ邪ヲ正シクスルナリ。○先生曰ク、師ヲ立ツルニ厳重ヲ以テシ、之レニ師トシテ事フルハ身ヲ修ムル所以ナリ。師道ハ重カラザレバ則チ学ブ所固カラズ。韓文ニ曰ク、師ハ道ヲ伝ヘ業ヲ受ケ、惑ヒヲ解ク所以ナリ。謝暈山是レヲ註シテ、三大経ト曰フ。白虎通曰ク、文武ハ尚父ヲ師トシ、周公ハ號叔ヲ師トシ、孔子ハ老聃ヲ師トス。孔子曰ク、必ず師伝ヲ立ツ。韓文ニ曰ク、惑ヒテ師ニ従ハズ、其ノ惑ヒニナルコトナリテ終ニ解ケズ。人トシテ有道ニ付テ正シカラザレバ則チ邪路ニ赴クコト知ラズ。師ハ以テ其ノ誤リヲ正スベキナリ。友ヲ以テ其ノ詳ヲ討論ストハ、学知行ノ詳ナルコト、天（二六ウ）長地久モ猶ホ此クノ如シカアリト云ヘル心ナリ。△況ヤ人事ヲヤトハ、人道尤モ云フニ及バズト云ヘル心ナリ。天地ノ常久、五行ノ定体ナルモ此クノ如シ。人道ニ於テ変態是レ常トス。△況ヤ国家天下ヲヤトハ、国家天下ノ変化、是レ又タ云フニ及バズ。警戒セズンバ有ルベカラズ。怠惰スベカラザルコトヲ云ヘルナリ。

凡そ警戒は曰く心、曰く身、曰く家、曰く国、曰く天下、皆理を以てし、形を以てし、物を以てし、用を以てし、時を以てし処を以てす。文武権衡の因る所なり。

△警戒ハ曰ク心トハ、是レヨリ警シテ慎シムベキノ目次ヲ一一ニ云ヒ立ツル故ニ曰クト云フナリ。第一ニ心ヨリ身、家、国、天下ナリ。心ヲ誠ニシ戒ムルハ心ノ警戒ナリ。身ハ身ヲ修メ、家ハ家ヲ齊ヘ、国ハ国ヲ治メ、天下ハ天下

ヲ平ラカニスルナリ。△皆理ヲ以テスト云フヨリ形―物―用―時―所ハ警戒ノ用ナリ。皆トハ必ズ身、家、国、天下ノ義ナリ。天地ノ間、凡ソ理、形、物、用、時、所ノ六ツニ出デザルナリ。理トハ成ルベク行フベクノ條理ヲ以テ戒ムルナリ。形トハ此ノ理有ルトキハ必ズ此ノ形無クンバ有ルベカラズ、其ノ形容ヲ以テ戒ムルナリ。物トハ器物ナリ。戒ムニ必ズ器物ヲ遁レズ。用トハ戒ムルニ必ズ戒ムベキノ用法有リ。時トハ万物時ヲ以テセザルハ無シ。処トハ、場処ハ其ノ地ニシテ万物ノ洩レザル処、此ノ六ツ万物万事敢テ遁ルルコト能ハズ。用ヲ以テ云フ。譬ヘバ武士一支ノ劍術ヲ習行スルニモ此ノ六ツヲ漏ルルコト無シ。事業恒ニ学バザレバ則チ率ニ応ジ難ク、士タル者力行尽サザルトキハ本意ニアラズト。武ノ武タル処ノ本原ヲ思量シテ、一（一七オ）此ノ劍撃ニ習行ヲ始ムルハ士ノ士タル理ヲ以テスル警戒ナリ。撃劍ノ術ニ身ヲ置クトキハ、形用ニ於テ衣服上下迄モ心ヲ付ケ、敢テ形体ノ上ニ於テ怠リ無キガ如ク警戒スルハ、形ノ警戒ナリ。物ヲ以テストハ常ニ帯スル処ノ大小刀ニ至テモ細カニ心ヲ用ヒ、治乱ニ器物ヲ考テ是レヲ調べ、真劍木刀並ベ貯ムルハ器物ノ警戒ナリ。用ヲ以テストハ習行ノ用処、切ルニ大小ノ長短、輕重、不用カ用要カヲ分別シテ詳ニ能フ。是レヲ帯用スルハ用処ノ警戒ナリ。時ヲ以テストハ習行ハ暫時モ怠ルベカラズト雖ドモ、又夕朝昼暮宵夜曉ノ六時ヲ考フベク分チテ、慎戒スベキ時有リ。又夕休息スベキ時有リ。時ニ於テ心ヲ用ヒルハ時ノ警戒ナリ。処ヲ以テストハ討劍ノ術、場所有リ。習行スベキ場ニシテ又夕慎シムベキ場ナリ。為スベキ処、為スマジキ処、勘弁斟酌シテ是レヲ為スハ処ノ警戒ナリ。此ノ如キノ六ツハ一支ノ小術ト云ヘドモ、警戒セザルトキハ皆ナ怠ルナリ。怠ルトキハ心身家ヲ誤ル。況ンヤ国主天下ノ主ニ於テ須臾モ理、形、物、用、時、処ヲ以テ警戒無カラズンバアルベカラズ。△文武權衡ノ因ル所ナリトハ、治ニ文徳、乱ニ武備、治ニ武ヲ備ヘ、乱ニ文ヲ捨テズ。文武ハ陰陽ナリ。譬ヘバ天地ノ如シ、日月ノ如シ。權衡ハ鈞合ナリ。秤ノ重リノ如シ。文武ハ偏廢スベカラザルノ鈞合ノ用起ル所ナリ。

建官

建官トハ（〇百）官ヲ建テ職役ヲ分カツナリ。朝廷ニ於テ一ハヲ定ムルヨリ下微末ニ至ル迄デ、惟ダ其ノ人ヲ知ルニ（一七ウ）出デズ。書ノ武成ニ曰ク、建官ハ惟レ賢、位ス事惟レ能クスト云ヘリ。武門ノ將ヲ撰ビ士ヲ用ルニ分類ヲ為ス、是レナリ。建ハ立ツナリ。官ハ礼ノ王制ノ註疏ニ官ハ管ナリ。管領ヲ以テ名ヲ為シ増韻ニ職ナリ、云云。

上有らば則ち下有り、君有らば則ち臣有り。是れ天地の物則なり。臣は職官を分たざれば則ち其の用足らず。

△凡ソ上タル者有ルトキハ、下ニ対スル者必ズ有り。君タル者有ルトキハ、下ニ臣タル者出来ルハ、天地自然ノ理ニシテ不易ノ物則ナリ。是レ君臣上下ノ根原ヲ云フナリ。然ルニ諸臣下ニ於テ職ヲ撰ビ官ヲ定メテ分配セザレバ其ノ用々定ラザルガ故ニ、衆有リト云ヘドモ其ノ用ヲ為サズシテ事不足セルナリ。

故に百官定めざれば、則ち各其の職分を知らず、朝廷正しからず。朝廷正しからざれば、則ち君臣乱る。是れ建官の起る所、已むことを得ざるなり。

△故ハ上文ヲ受テ云フ。百官トハ書ノ大禹謨ニ百官ヲ率ルト云ヘリ。百ハ數ノ多キヲ云フ。百官其ノ品々ヲ撰教シテ分チ定メザレバ、各銘々我々ノ其ノ職役ヲ知ラズ。故ニ朝廷混雜シテ正シカラズ、紛乱シテ天下ノ人向フ所ヲ失ス。朝廷此ノ如キナレバ則ち君臣ノ礼義相ヒ乱ル。君臣ノ礼義乱レバ則ち朝廷■炭ニ落ツ。朝廷トハ凡ソ上禁庭ノ政務ノ究ムル処ヲ云ヘリ。朝ハ潮ナリ。衆臣ノ群衆スルコト潮ノ干満（ノ時）有リテ違ハズニ比ス。庭ハ政道ノ因リテ出場ナリ。然レドモ凡ソ政務ノ出ル処、皆ナ此ノ心ヲ受ル義ナリ。是レ建官ノ本ヅキ起コル所、天地自然ノ

物則ニシテ已ムコトヲ得ザルナリ。人事ノ強ヒテ造為スルニ非ザルナリ。故ニ其ノ建官ノ用天地ノ物則ニ従フ。能ク正シカラザレバ、則チ百官却テ朝廷ヲ乱スナリ。」（一八才）万邦皆則ヲ受ク、慎マザルベカラザルナリ。

百官の要は文武の官のみ。

△百官ノ枢要ハ其ノ才文武ノ官ニ止マル、或ハ一人ニシテ文武ヲ兼備シ、或ハ文官武官相ヒ分レ其ノ任甚ダ重シ。往昔異朝ヲ例ニセバ、大禹ノ任ズル所、入テハ相トシテ舜帝ヲ輔佐シ、文明四海ニ敷キ、出テハ將トシテ三苗ヲ征ス。帝曰ク、咨惟レ時有苗率ズ、汝徂テ征セト云ヘル、是レナリ。其ノ外伊尹周公孔子ニ於ル文武ノ才兼備セズト云フコト無シ。吾 本朝ニ於テ聖文神武ノ徳兼備ノ仁才乏シカラズ、入出相將ヲ以テ百官ノ枢要ト致セルコト、是レ和漢ノ重スル所、殊更 本朝神武ト称フルトキハ、皆ナ文武兼備ノ号ト知ルベシ。文武ヲ別ニスルハ全ク神武ノ意味ニ反ス、重々深意有リテ必ず教ニ因ラザレバ知ラザル所ナリ。

凡そ一人に師範として四海に儀刑す、直ちに君徳を奉じて万機の事を決す、文事には則ち相となり、武事には則ち將となる。

△凡ソハ語ヲ更ムル言ナリ。△北畠准后親房ノ職原鈔ヲ案ニ曰ク、大政大臣一人、一人ニ師範トシテ四海ニ儀刑ス。其ノ人無クンバ則チ闕ク、云云。頭書ニ曰ク、唐書ニ曰ク、三師一人ニ師範トシテ四海ニ儀刑ス、云云。猶ホ天子ノ師範トナルヲ曰フガゴトク四海ノ儀刑トナルナリ。師範、儀刑ハ皆ナ人ノ法則トナルヲ謂フナリ。言フココロハ大政大臣ハ天下ノ棟梁ニシテ治否皆ナ此ノ人ニ帰ス。故ニ有徳ノ君子ヲ撰ンデ之レニ任ズ。若シ此ノ如キノ人無ケレバ則チ此ノ官ヲ闕クナリト云ヘリ。一人トハ天子ヲ指ス。書ノ湯誓ニ、爾尚クバ予レ一人ヲ輔ケヨト云ヘル、是

レナリ。△直チニ君徳ヲ奉ジテ」(一八ウ)トハ、君臣ノ間、合体合一ニシテ上二人ノ徳沢ヲ真直ニ相將受ケ奉ジテ四海ニ布キ施スナリ。△万機ノ事ヲ決ストハ、書ノ臯陶謨ニ一日二日万機アリ。註ニ曰ク、幾ハ微ナリ。蓋シ禍患ノ幾、細微ニ藏レテ、常ニ人ノ予ジメ見ル所ニ非ズ。其ノ著ワルルニ及ビテハ則チ智者ト雖ドモ其ノ後ヲ善クスルコト能ハズ。故ニ聖人幾ニ於テセバ則チ競業シテ以テ之レヲ凶ル。所謂ル難キヲ其ノ易キニ凶リ、大キヲ其ノ細キニナルトキハ此レナリ。(○万機ハ)其ノ幾事ノ至テ多キヲ言フナリ。蓋シ一日二日ノ間モ事幾ノ来ル、且サニ万ニ至ラントス、焉ンゾ是レ一日モ欲ヲ縦^{ホシイ}ママニスベケンヤト云ヘリ。△文事ニハ則チ相トナリ、武事ニハ則チ將トナルトハ、乃チ是レ出入相將ノ任ナリ。文教ニハ相トナリテ君徳ヲ四海ニ布キ施シ、武備ニハ將トナリテ武教ヲ八荒ニ弥ラシメ、能ク帝王ノ師トナルコト、文武兼備ノ才ヲ重ンズル所ナリ。相トハ宰相ナリ。事物起原ニ曰ク、昔周公家宰ニ位シ、百工ヲ正シ、以テ成王ヲ相ク。故ニ宰相ノ称有リ。其ノ事ハ秦漢ヨリ始ル。陣平力宰相ハ上天子ヲ佐クト言フ、是レナリ。通典ニ曰ク、春秋ノ義、上公ヲ尊ビ、之レヲ宰ト謂フ。海内統ベザルコト無キヲ言フナリ。故ニ亦タ上相ト謂フ、是レナリ。武將ノ任ハ萬民ノ司命国家安危ノ主ナリ。故ニ上天ニ制セラレズ、中人ニ制セラレズ、下地ニ制セラレザルハ古今ニ通ズ。三才ヲ知り強弱ヲ兼ネ、柔剛ヲ備ヘ、端末未ダ見ワレザレバ能ク知ルコト莫シ。天地神明ニシテ物ト推シ移リ變動常無シ。敵ニ因テ転化ス。事ノ先トナラズシテ、動キテ輒チ随フ。故ニ能ク無疆ヲ凶制シ天威ヲ扶成シ、八極ヲ康正シ、九夷ヲ密定ス。此ノ如ク謀ルハ帝王ノ師トナラント云フガ如キ、是レナリ。異邦ニテハ遠キハ陶朱公、諸葛亮、近キハ韓魏公、皆ナ出入相將ノ任ナリ。

世殊に時澆にして、人才得難くして、或は其の任を異にす。相將の撰甚だ重し。唯だ德智勇を以て先後を為す。」(一九才)

△世殊ニ時澆ニシテ、人才得難クシテ、或ハ其ノ任ヲ異ニストハ、世殊ニハ世々相隔リカ[■]ルナリ。時澆トハ、時代澆季ニシテ人才自然ト乏シク其ノ人ノ得難キ所ノ謂ヒニシテ、或ハ其ノ職任ヲ文官武官ト別ニ為ス。往古ハ一人ニシテ文武ヲ兼備シテ偏廢ナシ。故ニ異邦ニテハ三公ナル者ハ、皆ナ則闕ノ官ナリ、師伝保ハ是レナリ。書ニ曰ク、大師、大伝、大保ヲ立テ、茲ニ惟レ三公ハ道ヲ論ジ、邦ヲ経メ、陰陽ヲ変理シ、官必ズ備ヘズ、惟レ其ノ人ヲス。是レ本朝ノ太政大臣、左右大臣ナリ。皆ナ諸官ヲ棟梁シ、帝道ヲ塩梅スル者ナリ。文武ノ人才、相將ノ兼任ナリ。吾 細戈智 (ママ) 足国、往昔文武ノ兼才、敢テ乏シカラズ、天孫降臨ノ時、天兒屋根命、天太玉命、天照大神ノ勅ヲ奉ジテ、左右ノ扶翼ト為ス。今世ノ左右ノ相スルガ如キカ。神武帝東征ノ后、天下一統ス。二神ノ孫、天種子命、天富命、又左右トナリ、又タ上古ハ太臣ノ号無シ。執政ノ人ヲ喚ビテ、食国政コト申ス太夫^{ケクニ}と称ス。第十二代 景行ノ御宇初メ武内宿禰ヲ以テ棟梁ノ臣ト為ス。十三代 成務御宇初メ太臣ト号ス。十四代 仲哀朝、又タ大友武持ヲ以テ大連ト号ス。太臣大連相ヒ並ベテ政事ヲ知ル。爾来代々大臣大連ノ任有リ。三十六代 皇極天皇四年、始メテ左右ノ大臣ヲ置キ、大連ヲ止ム。三十七代 孝德帝中臣鎌子連ヲ以テ内臣トナル。三十九代 天智帝拳ゲテ内太臣トナル。又タ大政大臣同朝ニ初メテ之レヲ置ク。皇子大友、之レニ任ズ。四十代 天武帝皇子、高市ヲ以テ之レニ任ズ。四十六代 孝謙帝政シテ大師ト云フ。又タ改メテ太政大臣ト云フ。五十五代 文德帝藤原良房、之レニ任ズ。又タ准大臣有リ。四十二代 文武帝^{ヲカス}刑部王 (一九ウ) 大政官ノ事ヲ知ル。四十五代 聖武帝鈴鹿王之レニ同ジクス。寛弘中ニ、帥内大臣、儀同三司ト称ス。弘安中ニ源基具之レヲ知ル。后、太政大臣トナル。其ノ后、正応ニ定実 (公)、永仁ニ通頼公、嘉元ニ実家公、各ノ之レニ任ズ。後醍醐帝、定房公、之レニ任ズ。后、内大臣トナル。又タ摂政関白ハ大臣之レヲ兼ネ、或ハ大臣ノ職ヲ去リテ之レヲ帶ス。東三條兼家公之レニ居レリト。此ノ職ハ異邦ニ於テハ唐堯ノ時、舜摂政ス。殷湯ノ時、伊尹阿衡ス。周ノ成王幼キヲ以テ、周公旦摂政ス。漢ノ昭帝ノ

時、霍光摂政ス。宣帝ニ到リテ、霍光ヲ以テ万機ヲアツカリマフケ 闕白セシム。闕白ノ号、此レヨリ始ム、云云。本朝ニ於テ十四代 仲哀帝崩ズ、皇后摂政シ玉フコト六十余年、三十四代 推古帝、厩戸皇子摂政タリ。三十八代 斉明帝中大兄皇子摂政ス。五十六代 清和帝、忠仁公、人臣ヲ以テ摂政スルノ始メナリ。爾来彼ノ一門執政ノ臣トナル。必ズ執柄ノ一ノ座ノ 宣旨ヲ蒙ル。一ノ人ト称スルナリ。右ノ数輩、或ハ武将トナリテ暴乱ヲ戢ムル、或ハ文相トナリテ泰平ヲ謀ル。故ニ世々其ノ任甚ダ重シ。又外ノ武臣ニ於テハ将帥ノ職トナリ、犬毛之レヲ重ンズ。闕外ノ権ヲ分ツ所以ナリ。馮唐曰ク、王者将ヲ遣リ、跪シテ毅ヲ推ス。曰ク、闕ヨリ以内ハ寡人之レヲ制ス、闕ヨリ以外ハ、將軍之レヲ制ス。軍功ノ爵賞皆ナ外ニ決ス、云云。左伝ニ大将ニ之レヲ元帥ト謂フ。漢書ノ註ニ曰ク、其ノ居処、之レヲ幕府ト謂フ、云云。將軍職ハ修行ニ在リテ常所無シ。所在ニ治ヲ為ス故ニ爾レヲ云ヒ、又タ將帥ト称ス。麾下ト云ヒ、又タ戲下ト云フ。又將帥ハ節鉞ヲ賜ルノ制有リ。節度ハ其ノ信ヲ示ス所以ナリ。斧鉞ハ刑戮ヲ專ラニスル所以ナリ。本朝將帥ノ任、神代ニ起レルナリ。其ノ初メ 天照太神、天孫ヲ豊葦原ノ中国ニ降サント欲スル時ニ、齊主神武雷神ヲ遣リ、諸ノ不順者ヲ平ラカニセシム、云云。又タ大物主、事代主神等、將帥ノ神トナル。又天孫（二〇才） 降臨ノ日、天忍日命、弓矢ヲ採リ、前驅ヲ為ス。神代ノ制見ルベシ。人代ニ至テ 神武天皇東征ノ日、道ノ臣命軍師トナル。崇神帝十年、四道將軍ヲ四方ニ遣リ、將軍ノ号、正シク此ニ起ルカ。景行帝四十年皇子日本武尊ヲ以テ大將軍トナリ、蝦夷ヲ征シ玉フ。其ノ后、世々武將ヲ撰シテ、以テ賊徒ヲ征シ、太平ヲ図ル。其ノ任甚ダ重シ。△唯ダ德智勇ヲ以テ先後ヲ為ストハ、此ノ三徳ヲ以テ乱ニハ勇智徳ヲ以テシ、治ニハ德智勇ヲ以テス。先後無キコト有ルベカラズ。德智勇ハ本朝ノ皇極無上ノ神伝有リ。相將德智勇ニアラザレバ建ツベカラズ。中庸ニハ聖人知仁勇ヲ云ヘリ。本朝ニ於テ事業相ヒ似レルヲ以テ、三神器ヲ以テ知仁勇ニ比ス、然レドモ玉ヲ以テ仁ニ比スルコトヲ知ラズ。玉ハ徳ナリ。礼記ニ曰ク、昔ハ君子徳ヲ玉ニ比ス。詩ニ曰ク、言君子ヲ念フ。温ニシ

テ其レ王ノ如シ。徳ヲ以テ玉ニ比スルコトハ之レ有リ。劍鏡ノ勇智ニ似ルハ然ルカ。人人具足スル所ノ神器、慎ミテ之ヲ修ムルトキハ人タリ。神伝容易ニ談ズベカラズ。此ノ章ニ於テ仁智勇ト置カレズシテ、徳智勇ト述ベ玉フコト、慎ミテ考フベキナリ。書ニ曰ク、天乃チ王ニ勇智ヲ錫フ。徳ノ日ニ新ニ萬邦惟レ懐ク、云云。葛亮ガ曰ク、徳ヲ先ニシテ勇ヲ後ニス。註ニ曰ク、之レヲ以テ礼義ノ勇タルナリ。

徳は心を正し身を修むるなり。簡にして煩はしからず、和して厲しからざるなり。

△此ノ一章ハ徳ノ釈ナリ。徳ハ第一ニ其ノ心ヲ正シ、第二ニ其ノ身ヲ修メ、第三ニ簡ニシテ煩ハシカラズ、第四ニ和シテ厲シカラザルナリ。是レ皆ナ徳ノ用ナリ。心ヲ正シ、身ヲ修ムルハ、大学ニ出ヅルガ如シ。簡ハ事少ナク約ナリ。煩ハ煩勞ナリ。事物ノ裁断事少ナクシテワヅラワシカラザルナリ。和シテ厲シカラズハ温良和寛ニシテ事ケヤケ（二〇ウ）クハゲシカラザルナリ。簡ハ書ニ、下ニ臨ミ簡ヲ以テス。蔡ノ註ニ、簡ハ煩ハシカラザルノ謂ナリ。上煩密ナレバ則チ下容ルル所無シト云ヘリ。和シテ厲シカラズハ、論語ニ温ニシテ厲シカラズト出タリ。○先生曰ク、徳ハ得ナリ。知ルニ至リテ、内ニ得ル所有ルナリ。之レヲ心ニ得テ、之レヲ身ニ行フ、徳行ト謂フ。其ノ徳公共ニシテ、天地ニ通ジ、万物ヲ惑ハザル者ハ天徳ナリ、明德ナリ。浅露薄軽ニシテ実地ヲ踏マザレバ則チ徳ト謂フベカラズト、云云。

智は善く謀るなり、材知なり、己彼を知り天地を知るなり、古今に通じ黑白を弁するなり。

△智ハ識ナリ、智謀ナリ。相将智謀無クンバアルベカラズ。第一善ク謀ルナリ。第二ニ材知ナリ、第三ニ己レヲシテ彼ヲ知ルナリ、第四ニ天文地利ヲ知ルナリ、第五ニ古往今來ヲ知ルナリ、第六ニ黒キ白キヲ弁明スルナリ。△善

ク謀ルトハ、唐書ニ曰ク、房玄齡善ク謀ル。管子ニ曰ク、君子ハ善ク謀リ、小人ハ善ク意フト云ヘリ。必竟智謀ナリ。孫武將ヲ論ジ、智ヲ以テ第一トス。太公將ヲ撰ビテハ、將智ナラザレバ則チ三軍大ニ疑フト云ヘリ。戦ハズシテ人ノ兵ヲ屈スルハ善ク謀ルナリ。○先生曰ク、知明ラカニ材ニ達スルトキハ善ク国政ヲ弁ズルナリ。善ク国政ヲ弁ズルモ智謀ナリ。謀ハ難ヲ咨リ患ヲ慮ルヲ謀ト曰フ。又タ一事ヲ慮リ一事ヲ画スハ謀ト為ス。論語ニ曰ク、遠慮無ケレバ則チ近ク憂有リ。又タ事ニ臨ミテ懼レ、好ミ謀リテ成ルモノナリ。○太公曰ク、計ヲ已失ノ後ニ設クル者ハ上智ニアラズ。△材ハ才ナリ、才ハ智ノ発用ナリ。○伊川曰ク、氣清ケレバ則チ才清シ、氣濁ルトキハ才惡ト云ヘリ。才モハカルナリ。論語ニ取材スル所無カラン、才ニ同ジク用ニ堪ユル者ヲ材ト曰フ。智内ニ明ルキトキハ知ルコト早シ、知ルトキハ材ル、是レナリ。○呉子ニ曰ク、良材ヲ簡募ス。左伝ニ、楚ニ材有ルト雖ドモ、晋実トニ之レヲ用フルト云フ、是レナリ。材ハ木ノ用フベキヲ材ト云フ。人ノ才有ヲ通ジテ材ト云フナリ。」「(二一才)△己彼ヲ知リトハ、○孫子ニ曰ク、彼ヲ知リ己ヲ知レバ百戦危フカラズ、彼ヲ知ラズシテ己ヲ知ラバ一ツ勝チテ一ツ負ケ、彼ヲ知ラズ己ヲ知ラザレバ戦フ毎ニ必ズ敗ル。△天地ヲ知ルトハ、○孫子ニ曰ク、彼ヲ知リ己ヲ知レバ勝乃チ殆フカラズ、天ヲ知リ地ヲ知ラバ勝乃チ全クスベシ。全トハ○先生曰ク、天地ヲ知ル者ハ兵法ノ全体ニ通ズル故ニ全勝アリ。全テ勝ツトハ少シモ闕クルコトアラザルナリ。△古今ニ通ジトハ、上篇ニ云フガ如シ。△黑白ヲ弁ズルナリトハ、李斯伝ニ曰ク、今ノ皇帝天下ヲ并セ有チテ、黑白ヲ別ケテ一ヲ定ム。又タ韓非飾邪ニ目、明ラカナラザレバ黑白ノ分ヲ決スルコト能ハズ。黑白ハクロキシロキナリ。北南ノ正シキ色ニシテ大本ハ陰陽ナリ、昼夜ナリ。將ノ才知ニ於テ黑白ヲ明弁トスルモノハ能ク察セザルベカラザルナリ。○先生曰ク、聖賢ハ知ルコトノ至ルナリ、愚不肖ハ知ノ習ヘルナリ、知ノ至ルハ物ヲ格スニ在リ。天蒸民ヲ生ジ、物有リ則有リ、能ク其ノ物ニ至ル。尽クサザルコト無ケレバ則チ其ノ知ルニ至リテ通ゼザルコト無シ。尽クサザルコト無ク、通ゼザルコト無キ者ハ聖ナリ。

又タ曰ク、力行省察シテ后知ルコトノ至リナリ。

勇は力行なり、果敢なり、動かず屈せざるなり、厳莊なり、篤淳なり。

△是レハ勇ノ積ナリ。第一力行ナリ。力行ハツトメ行フナリ、是レ則チ勇ノ全体ナリ。第二果敢ナリ。果敢ハ物ニベナク方正ニ決断スルナリ。第三動かズ屈セズトハ事ニ触レ物ニ応ズルニ變動セズ、屈究屈伏セザルナリ。第四厳莊トハ威儀厳莊ニシテ山ノ峙ツガ如シ。第五篤淳トハ万事輕薄ナラズ、篤ク信ニシテ淳ク行フナリ。△中庸二曰ク、力行ハ仁ニ近シ。字書ニカヲ用ヒテ勉彊スルヲカト曰フ。凡ソ勇ハ力テ行ヒ自ラ励ミ強ヒテ行ヒ事々省察シテ息マズ、中道ニシテ廢セズ。行クベキ処ニ是非行キ、成ルベキ所ヲ是非成ス、是レ力行ナリ。」「（二一ウ）勇ニアラザレバ成ラズ、為サザレバ勇ナラズ、勇ハ則チ力行、力行ハ則チ勇ニシテ、別物ニアラザルナリ。△果敢ハ事物ノ決断アルヲ云フナリ。物ニ向カヒテ回サズ、猶予孤疑無クシテ、断割裁制事ニ臨ミ、変ニ応ジ遲疑セザルナリ。義ノ有ル俛ニ行フナリ。△動かズ屈セズトハ、中庸ニ君子動かズシテ敬スト。事ニ当リテ動揺セズ、能ク静カニシテ常ニ變セズ、常ニ死ヲ見ルニ生クルガ如クス。白刃モ克ク踏スベキハ動かザルナリ。所謂ル本智虚空蔵ハ勇ノ体ナリ。屈セザルハ物ニ応ジテ屈究退屈ナキナリ。之レニ与フルニ難ヲ以テシテ、以テ其ノ勇ヲ觀ル、本心物ニ屈スルノ性無ケレバ則チ釜湯沸々トシ刀鋸前ニ在レドモ屈伏セズ、克ク久シキニ堪ヘ永ニ勞セズ、終日乾々通宵自若トシテ敢ヘテ怠ラザルヲ云フナリ。○孟子ノ曰ク、威武モ屈スルコト能ハズト云ヘリ。△厳莊ハ二字トモヲゴソカナリ。○孫武子嚴ヲ以テ將徳ノ一トナル。嚴莊ニシテ威儀無ケレバ則チ人ニ侮ラル。容貌ヲ慎ミ言語ヲ正シ、皆ナ嚴正ヲ以テセザレバ、和二流レ札ヲ失シテ中道ノ節亡却ス。論語ニ曰ク、之レニ臨ムニ莊ヲ以テスルトキハ敬アリ。△篤淳ハ篤厚淳直ニシテ、事篤カラザルハ輕薄ニシテ、信ヲ失ヒ物直サズ邪曲ニシテ義無シ、節操以テ紊ルルコト

一モ闕クベカラザルノ目次ナリ。

此の三徳を具ふるを大臣大将と曰ふなり。各の其の職任有り。

△此ノ三徳ハ徳智勇ヲ指スナリ。中庸ニ、三者ハ天下ノ達徳ナリト云フガ如シ。具ハ其ノ身ニ具足スルナリ。此ノ三徳ヲ具足スルハ大臣大将ノ職任ニ当ル人ト云フナリ。△各職任有リトハ、大臣トシテハ文教四海ニ布キ、一人ニ師範トシテ天下ニ儀形ス。大将トシテハ三軍ヲ帥シ暴ヲ誅シ、賊ヲ征シ武教神ニ入り帝王ニ師タルベキノ任、治乱共ニ一ニシテ、四民処ヲ得テ国家ノ安泰ヲ期スル、是レ職任有ルナリ。各ノトハ文武ノ二教ヲ云フナリ。」(二二二オ)

主は其の撰を正しくすれば、則ち委ねて疑ふべからず。

△主ハ天下ノ国家ノ主ナリ。△其ノ撰ヲ正シクストハ、撰挙甚ダ重シ。○孔明ガ所謂ル主トシテ撰バザレバ、則チ其ノ国ヲ以テ敵ニ与スルナリト云フガ如シ。能ク正スベキノ枢要ナリ。能ク正シクスルトキハ委ネテ疑フベカラズ。疑フベキハ任スベカラズ。委ハ委任ナリ。マカセ〜ルナリ。往昔ノ暗主撰挙正シカラズ。一旦任セル后ノ偽臣ノ為ニ、或ハ叛者ノ為ニ言ヲ容レ、讒ヲ信ジテ疑ヲ生ジ、闔外權任スルノ后、内ヨリ御シテ事ヲ誤ラシメ、大ニシテ国家ヲ失ヒ、異邦ノ葛武侯 本朝楠氏將ニ炳然トシテ口碑有リ。成王ノ周公ニ於ケル、亦タ疑有リ。后来ノ主將蔡セザルベカラザルナリ。○孫子ノ糜軍ノ説、由有ルカナ。

官長有司の撰正しからざれば、則ち蔽塞して明ならず、下情通ぜず。故に其の撰を忽にすべからず。智信仁勇忠を以

て其の間を斟酌す。

△官長有司ノ撰トハ皆頭々ナリ。相将ニ相繼ギテ一隊一事一物ノ官長タリトモ、其ノ撰用正シカラザレバ則チ蔽塞トヲ、イフサガリテ、正邪曲直明白ナラズ。必ズ主ノ明ヲ遮リ下民ノ情志上ニ通ゼズ、上ノ情恩撫ノ心、下ニ下ラズシテ中間ニ遛滯ス。下恨ヲ含ミ、国家乱ヲ招クノ基ナリ。△故ニ其ノ撰忽ニスベカラズト戒ラル、ナリ。△智信仁勇忠ヲ以テトハ六韜ノ説ナリ。之レヲ将ノ五材ト謂フ。曰ク、智ハ則チ乱ルベカラズ、信ハ則チ欺カズ、仁ハ則チ人ヲ愛ス、勇ハ則チ犯スベカラズ、忠ハ則チニタ心無シト云フ、是レナリ。△其ノ間ヲ斟酌ストハ、二字トモハカリ／＼ルナリ。字書ニ参酌ニ作ル、五材ノ間ヲ勘弁斟酌シテ能ニ因テ職ヲ授ケ、各ノ其ノ長ズル所ヲ取ルナリ。」

（二二ウ）

※本稿は国文学研究資料館共同研究（若手）「山鹿素行関連文献の基礎的研究」による研究成果の一部である。

